

取扱説明書

DIGITAL  
PIANO

J-5000

 YAMAHA

このたびは、ヤマハデジタルピアノ J-5000をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。J-5000の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

## 取扱説明書(本書)について

取扱説明書(本書)は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準 備** 最初にお読みください。
- **本 編** J-5000の使い方を詳しく説明しています。
- **付 録** J-5000をMDP1α(「伴奏くん」と組み合わせる楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

### 「パソコン活用マニュアル こんなことができます!クラビノーバ+パソコン」について

J-5000とパーソナルコンピューターを接続してどんなことができるのか、また接続に必要なものや接続の仕方などについて、わかりやすく説明したオンラインマニュアル(PDF)を、インターネットのホームページ(下記)に掲載しております。閲覧/ダウンロードしてぜひご利用ください。

クラビノーバホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>

マニュアルライブラリー(電子楽器/XG)

[http://www2.yamaha.co.jp/manual/emi/index\\_j.html](http://www2.yamaha.co.jp/manual/emi/index_j.html)

(クラビノーバのページに掲載してあります。初回だけ登録していただくことが必要です。)

### 表記上の決まり

【 】の意味

【 】: パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

⇨、➡の意味

⇨ の操作を行なった結果、 の状態になることを示しています。  
(操作の結果を示します。)

➡ の操作を行なったあと、 の操作をするを示しています。  
(操作の手順を示します。)

📖、Point、👉、? の意味

📖 (用語集) J-5000に関する用語や、専門用語を説明しています。

Point (ワンポイント説明) 機能の詳細や基本設定、補足事項を説明しています。

👉 (ご注意いただくこと) 操作するときにご注意いただく内容、できない内容を説明しています。

? (クエスチョン) ~するには? ~すると? といった目的や、機能・操作上の疑問にお答えしています。

この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

Macintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

# 目次

## 準備

取扱説明書(本書)について	2
安全上のご注意(ご使用前に必ずお読みください)	5
付属品(お確かめください)	7
J-5000のお手入れ	7
J-5000でこんなことができます	8
ご使用前の準備	9

## 本編

各部の名前	12
デモ曲を聞く	14
ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く	15
・ピアノ50曲の片手練習をする	16
・ピアノ50曲の部分練習をする	17
音色を楽しむ	18
・音色を選ぶ	18
・ペダルを使う	18
・音に変化を付ける…【REVERB】 <sup>リバーブ</sup> 】【EFFECT】 <sup>エフェクト</sup>	19
・タッチ感を変える…【TOUCH】 <sup>タッチ</sup>	20
・キー(調)を変える…【TRANSPOSE】 <sup>トランスポーズ</sup>	21
・2つの音色を混ぜる(デュアル)	22
・メトロノームを使う METRONOME <sup>メトロノーム</sup>	23
演奏を録音(記録)する	24
・最初のトラックに録音する	24
・録音し直す	25
・続いて2つめのトラックに録音する	26
・初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する	27
録音した曲を再生する	28
・再生の手順	28
・再生に関する便利な機能	28

各種の便利な設定をする…【FUNCTION】 <sup>ファンクション</sup>	30
・ファンクションでの基本操作	31
・各ファンクション項目の説明	32
音程の微調整(F1)	32
音律(調律法)の選択(F2)	32
デュアルの諸設定(F3)	33
左ペダル機能の設定(F4)	34
メトロノーム音量の設定(F5)	34
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定(F6)	34
MIDI機能の諸設定(F7)	35
バックアップON/OFFの設定(F8)	37
MIDIについて	38
他の機器と接続する	39
・端子について	39
・パーソナルコンピューターと接続する	40
故障かな?と思ったら	44

## 付録

MDP1α(伴奏くん)を使って ミュージックデータを楽しむ	46
音色一覧	47
デモ曲一覧	47
基本設定一覧	48
MIDIデータフォーマット	49
別売品のご紹介	53
仕様	53
J-5000の組み立て方	54
索引	56
保証とアフターサービス	59

## 目的別目次

### 聞く

- ・どんな曲が聞けるのか知りたい ..... 「デモ曲一覧」( P 47 )
- ・音色ごとのデモ曲が聞きたい ..... 「デモ曲を聞く」( P 14 )
- ・「みんなのピアノ クラシック名曲50選」の曲が聞きたい ..... 「ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く」( P 15 )
- ・録音した演奏が聞きたい ..... 「録音した曲を再生する」( P 28 )

### 弾く

- ・3種類のペダルを使い分けて弾きたい ..... 「ペダルを使う」( P 18 )
- ・一人一人のキーに合った伴奏をしたい ..... 「キー(調)を変える・・・【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>」( P 21 )
- ・音の強弱の付き方を変えたい ..... 「タッチ感を変える・・・【TOUCH】<sup>タッチ</sup>」( P 20 )
- ・他の楽器やCDの音楽に合わせて演奏したい ..... 「音程の微調整」( P 32 )

### 音を変える

- ・どんな音に変えられるのか知りたい ..... 「音色一覧」( P 47 )
- ・コンサートホールで弾いているような音にしたい ..... 「音に変化を付ける・・・【REVERB】<sup>リバーブ</sup>」( P 19 )
- ・2つの音色を組み合わせた ..... 「2つの音色を混ぜる(デュアル)」( P 22 )
- ・広がり感を付けた音や揺れるような音にしたい ..... 「音に変化を付ける・・・【EFFECT】<sup>エフェクト</sup>」( P 19 )

### 練習する

- ・右手または左手パートの音を消して練習したい ..... 「ピアノ50曲の片手練習をする」( P 16 )
- ・同じところを繰り返し練習したい ..... 「ピアノ50曲の部分練習をする」( P 17 )
- ・正確なテンポで練習したい ..... 「メトロノームを使う METRONOME」<sup>メトロノーム</sup>( P 23 )
- ・自分で録音した曲を使って練習したい ..... 「演奏を録音(記録)する」( P 24 )

### 録音する

- ・演奏を録音したい ..... 「演奏を録音(記録)する」( P 24 )

### 設定する

- ・いろいろな機能をもっと細かく設定したい ..... 「各種の便利な設定をする・・・【FUNCTION】<sup>ファンクション</sup>」( P 30 )

### 他の機器と接続して使う

- ・MIDI<sup>ミディ</sup>って何? ..... 「MIDI<sup>ミディ</sup>について」( P 38 )
- ・演奏を録音したい ..... 「端子について」AUX OUT<sup>アウト</sup>【R】L/L+R 端子( P 39 )
- ・もっと大きな音を出したい ..... 「端子について」AUX OUT<sup>アウト</sup>【R】L/L+R 端子( P 39 )
- ・他の機器の音をJ-5000から流したい ..... 「端子について」AUX IN<sup>イン</sup>【R】L/L+R 端子( P 39 )
- ・パソコンとつなぎたい ..... 「パーソナルコンピューターと接続する」( P 40 )

### 買う

- ・J-5000の活用範囲を広げたい ..... 「別売品のご紹介」( P 53 )

### 組み立てる

- ・J-5000の組み立て・解体をしたい ..... 「J-5000の組み立て方」( P 54 )

# 安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

## 記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	<b>注意</b> 感電の恐れあり キャビネットをあげるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

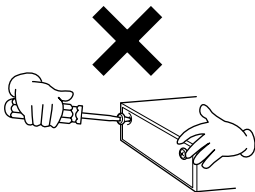
\* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## 警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



⊘ 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。

⊘ 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

! 電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

⊘ 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

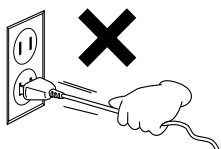
! 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

## 注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

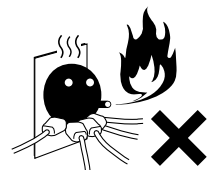
⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

! 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



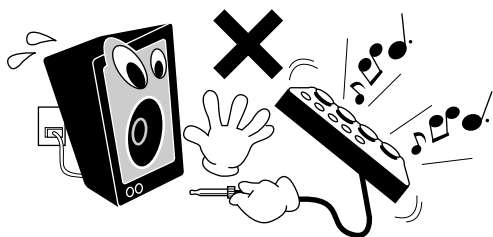
⊘ タコ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

! 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。

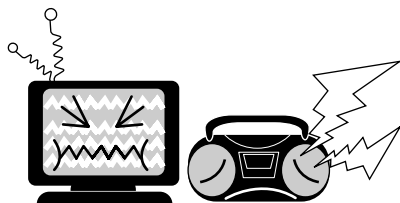




- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき、適切な音量にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布でふいてください。
- ⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ⚠ キーカバーで指などはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをすることがあります。
- ⊘ キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⊘ 本体を壁につけない。換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。
- ❗ 組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

#### イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスにすわったままでイスの高さを調節しない。イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

#### メモリーバックアップについて

- ❗ この機器は、バックアップの設定(P37)によって、各種の設定内容を、電源を切ったあと約1週間保持することができます。約1週間以上過ぎるとバックアップされている内容は消えてしまいますので、少なくとも1週間以内に数分間は電源を入れてください。

#### 作成したデータの保存について

- ❗ 作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などの外部機器に保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

#### 音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

\* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

# 付属品(お確かめください)

## 保証書

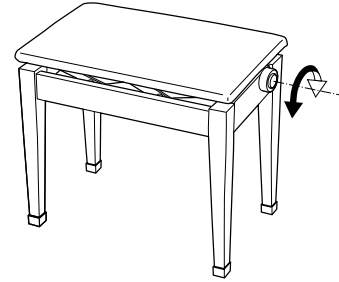


## みんなのピアノ クラシック名曲50選 (楽譜集)



## 高低自在イス BC-15

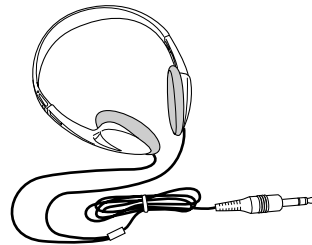
ご自分の演奏しやすい高さに調節してお使いいただけます。



## ご愛用者カード



## ヘッドフォン



## 取扱説明書(本書)



# J-5000のお手入れ

お手入れは、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布でふいてください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。

「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」 S: ¥400(税別価格) H: ¥350 (税別価格)



ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。また、J-5000の上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かないでください。  
J-5000のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。



J-5000のお取り扱いについて、ご使用前に必ず、P5の「安全上のご注意」をお読みください。

### 調律について

J-5000では、調律は必要ありません。

### ご引っ越しの際は

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。

# J-5000でこんなことができます

ヤマハデジタルピアノ J-5000は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWMステレオサンプリング」による豊かな音色と、鍵域により鍵盤の重さを変えてグランドピアノのタッチ感に近付けた「ハンマーエフェクト鍵盤」による自然な弾き心地を備えた電子ピアノです。

GRAND PIANOの音色は、フルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。

弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えることができます。  
(P 21)

音色ごとのデモ曲を聞くことができます。  
(P 14)

音量を調節できます。  
(P 10)

音程を微調整したり、メトロノームの音量を設定したりなどの各種の便利な機能を利用できます。  
(P 30 ~ 37)

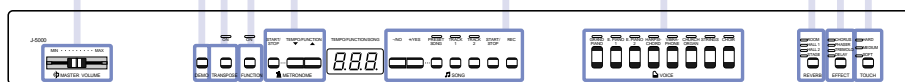
メトロノームの機能を利用できます。  
(P 23)

本体にピアノ50曲の演奏データが入っています。これらを鑑賞するだけでなく、便利な練習機能を使って練習することができます。また、ご自身の演奏を録音 / 再生できます。  
(P 15 ~ 17, 24 ~ 29)

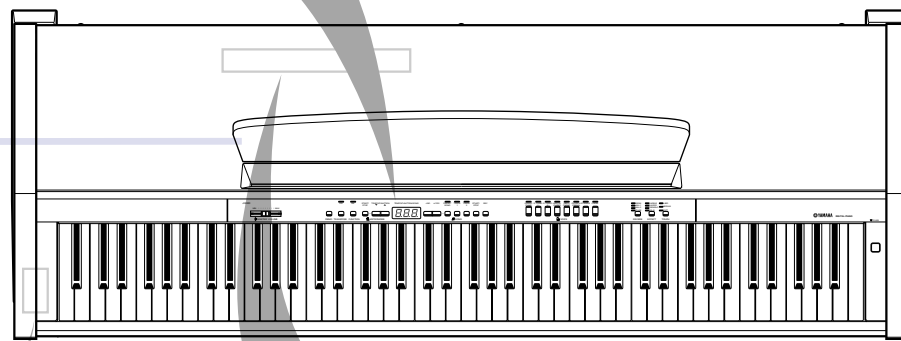
音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけることができます。  
(P 19)

グランドピアノをはじめとした8種類の音色をお楽しみいただけます。  
(P 18)

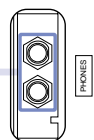
弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を調節することができます。  
(P 20)



譜面立てをはずすと、J-5000の上にノート型パーソナルコンピューターなどを置くことができます。  
(P 9)



ヘッドフォンで練習ができます。  
(P 10)



カセットレコーダーなどを接続して、ご自身の演奏を録音できます。  
(P 39)

外部機器の音をJ-5000から出すことができます。(P 39)  
MDP10(「伴奏くん」)  
(P 46, 53)  
EMR1(P 53)

パーソナルコンピューターと接続して、パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを楽しむことができます。  
(P 40 ~ 43)

ミディMIDI機器を接続して、MIDIを活用することができます。  
(P 35 ~ 36)  
ミディMIDIについて(P 38)



# ご使用前の準備

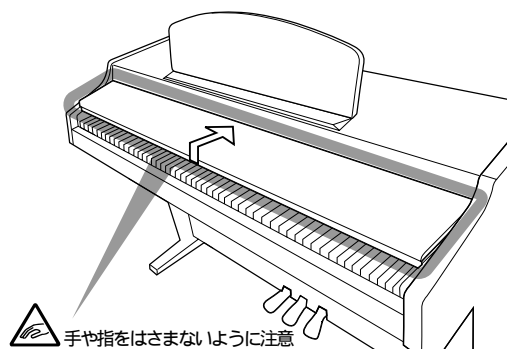
## ■ キーカバーについて

### 開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

### 閉めるとき

手前に引いて、静かに降ろします。

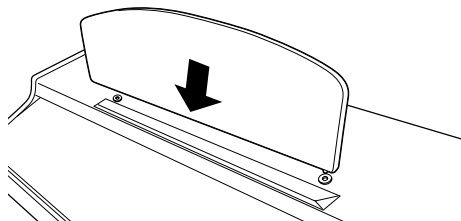


- ⚠️ キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- ⊘ キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

## ■ 譜面立てについて

### 立てるとき

図のように、J-5000上面の穴に差し込んで立てます。

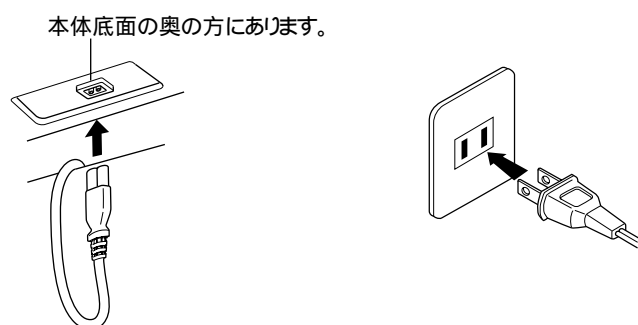


譜面立てをはずすと、J-5000の上にノート型パーソナルコンピューターなどを置くことができます。

## ■ 電源を入れる

### 1. 電源コードを接続する

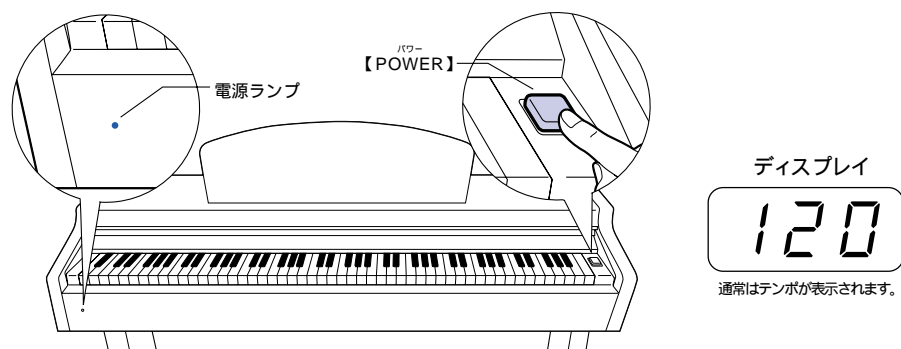
最初に本体側のプラグを差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。



## 2. 電源を入れる

本体パネル右の【POWER】<sup>パワー</sup>を押すと、電源が入ります。

⇒ 本体パネル中央のディスプレイに表示が現れます。また、J-5000前面左の電源ランプが点灯します。

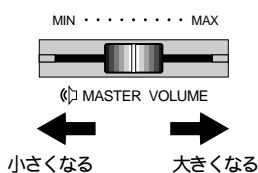


電源を切るときは、もう一度【POWER】<sup>パワー</sup>を押します。

⇒ ディスプレイの表示が消え、J-5000前面左の電源ランプも消灯します。

## 音量(ボリューム)調節

本体パネル左の【MASTER VOLUME】<sup>マスター ボリューム</sup>を左右に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



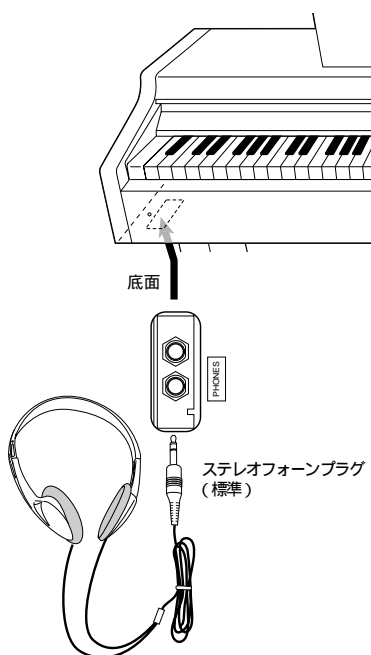
## ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを【PHONES】<sup>フォーンズ</sup>端子に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとJ-5000本体のスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】<sup>フォーンズ</sup>端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)

**!** 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。  
聴覚障害の原因になります。



<sup>パワー</sup> POWER = 電源

**Point.** 電源ランプについて...

J-5000のご使用后、電源を切り忘れてキーカバーを開けてしまった場合、電源ランプの点灯が、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

<sup>マスター ボリューム</sup> MASTER VOLUME = 全体の音量

**Point.** <sup>フォーンズ</sup>【MASTER VOLUME】で、<sup>イン</sup>【PHONES】の出力レベルやAUX INからの入力レベルも調節できます。

**Point.** 別売ヘッドフォン...

YAMAHAヘッドフォン HPE-160  
(税別価格: 5,500円)

# 本編

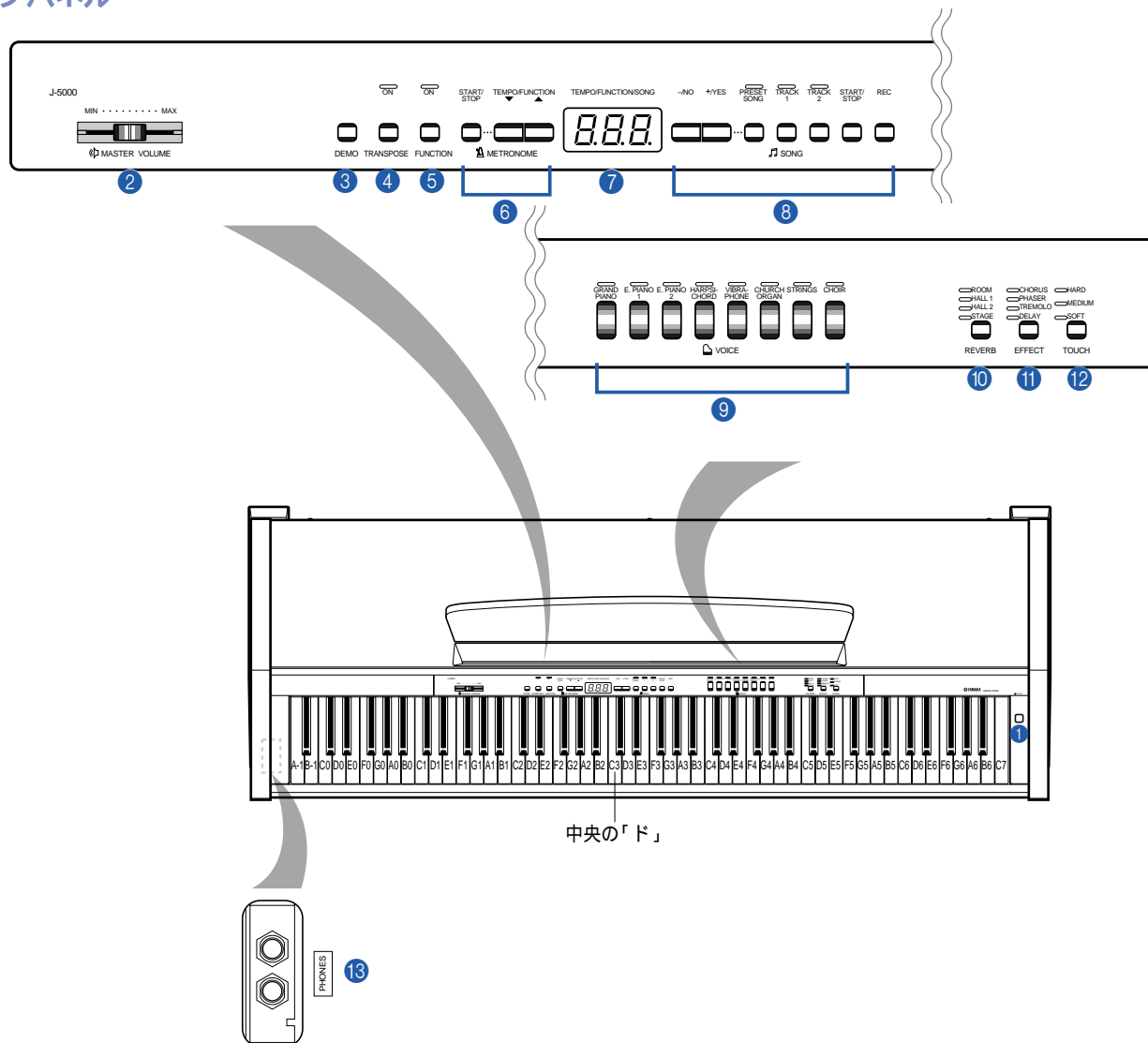
J-5000の使い方を詳しく説明しています。

各部の名前	12
デモ曲を聞く	14
ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く	15
・ピアノ50曲の片手練習をする	16
・ピアノ50曲の部分練習をする	17
音色を楽しむ	18
・音色を選ぶ	18
・ペダルを使う	18
・音に変化を付ける…	
【REVERB】 <sup>リバーブ</sup> / 【EFFECT】 <sup>エフェクト</sup>	19
・タッチ感を変える…【TOUCH】 <sup>タッチ</sup>	20
・キー(調)を変える…【TRANSPOSE】 <sup>トランスポーズ</sup>	21
・2つの音色を混ぜる(デュアル)	22
・メトロノームを使う(METRONOME) <sup>メトロノーム</sup>	23
演奏を録音(記録)する	24
・最初のトラックに録音する	24
・録音し直す	25
・続いて2つめのトラックに録音する	26
・初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する	27
録音した曲を再生する	28
・再生の手順	28
・再生に関する便利な機能	28

各種の便利な設定をする…【FUNCTION】 <sup>ファンクション</sup>	30
・ファンクションでの基本操作	31
・各ファンクション項目の説明	32
音程の微調整(F1)	32
音律(調律法)の選択(F2)	32
デュアルの諸設定(F3)	33
左ペダル機能の設定(F4)	34
メトロノーム音量の設定(F5)	34
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定(F6)	34
MIDI機能の諸設定(F7)	35
バックアップON/OFF <sup>オン/オフ</sup> の設定(F8)	37
MIDI <sup>ミディ</sup> について	38
他の機器と接続する	39
・端子について	39
・パーソナルコンピューターと接続する	40
故障かな?と思ったら	44

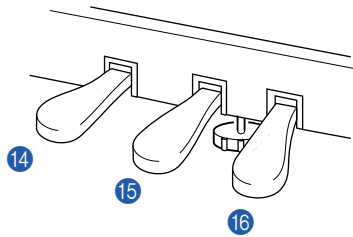
# 各部の名前

## トップパネル

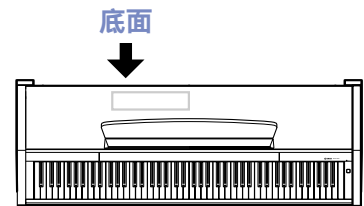
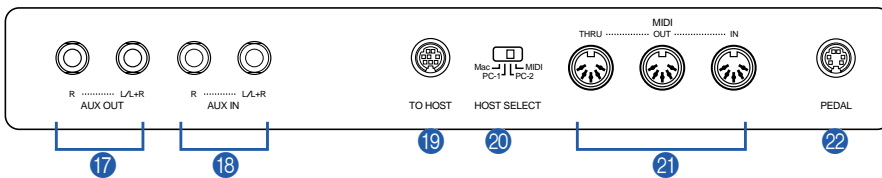


- ①【POWER】…………… P10
- ②【MASTER VOLUME】…………… P10
- ③【DEMO】…………… P14
- ④【TRANSPOSE】…………… P21
- ⑤【FUNCTION】…………… P30 ~ 37
- ⑥METRONOME【START/STOP】  
テンポ/ファンクション】…………… P23
- ⑦ディスプレイ…………… P13
- ⑧【- / NO】/【+ / YES】  
プリセットソング  
【PRESET SONG】

- 【TRACK 1】
- 【TRACK 2】
- ソング【START/STOP】
- 【REC】…………… P15 ~ 17、P24 ~ 29
- ⑨音色ボタン…………… P18
- ⑩【REVERB】…………… P19
- ⑪【EFFECT】…………… P19
- ⑫【TOUCH】…………… P20
- ⑬【PHONES】…………… P10



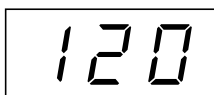
## 端子パネル



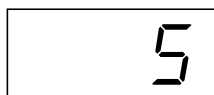
- |  |   |
|--|---|
| ⑭ 左のペダル(ソフトペダル)…………… P18                     | ⑲ <sup>トウーホスト</sup> 【TO HOST】…………… P39 ~ 43                     |
| ⑮ まん中のペダル(ソステヌートペダル) …… P18                  | ⑳ <sup>ホストセレクト</sup> HOST SELECT …………… P39 ~ 43                 |
| ⑯ 右のペダル(ダンパーペダル)…………… P18                    | ㉑ <sup>ミディ イン アウト スルー</sup> MIDI【IN X OUT X THRU】…………… P38 ~ 43 |
| ⑰ <sup>アウト</sup> AUX OUT【R X L/L+R】…………… P39 | ㉒ <sup>ペダル</sup> 【PEDAL】…………… P40、55                            |
| ⑱ <sup>イン</sup> AUX IN【R X L/L+R】…………… P39   |   |

## ディスプレイ

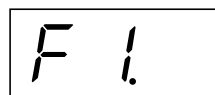
- ・操作の結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。
- ・場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。



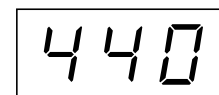
テンポ  
(通常の表示)



ピアノ50曲の曲番号



ファンクション項目番号

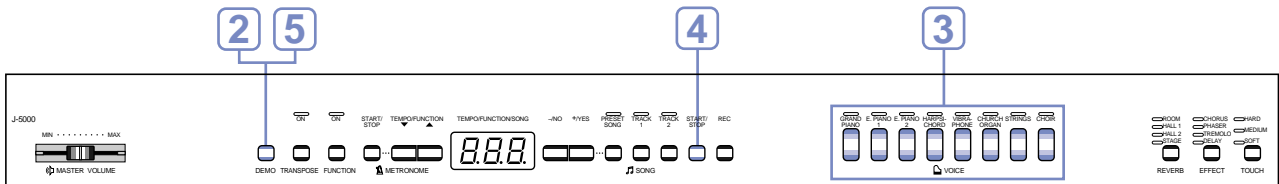


各種設定値



# デモ曲を聞く

J-5000には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



## 操作

### 1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)【POWER】<sup>パワー</sup>を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、【MASTER VOLUME】<sup>マスター ボリューム</sup>を中程まで上げておいてください。

### 2 デモ曲モードに入る

【DEMO】<sup>デモ</sup>を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

### 3 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずに  
SONG【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>を押すと、GRAND PIANOの曲が再生されます。)

⇒ デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

#### 音量の調節

デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】<sup>マスター ボリューム</sup>で音量を調節します。

### 4 再生ストップ

再生をストップする場合は、SONG【START/STOP】<sup>スタート/ストップ</sup>が再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

### 5 デモ曲モードを抜ける

【DEMO】<sup>デモ</sup>を押します。

⇒ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

#### Point. デモ曲の曲名リスト...

音色ごとのデモ曲には、各音色の特徴がよくわかる曲が選ばれています。デモ曲一覧をP47に掲載しています。

デモ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲モード中はMIDI受信を行いません。

ピアノ曲モード(P15)のとき、録音モード(P24)のとき、曲の再生中(P28)は...  
デモ曲モードには入れません。

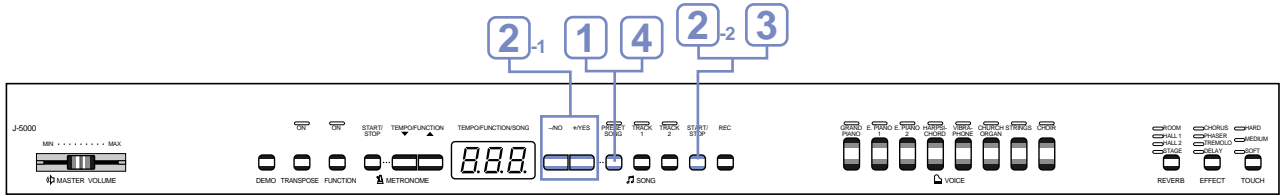
#### モードとは...

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

デモ曲では、テンポの調節や「片手練習(P16)」「部分練習」(P17)はできません。

# ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

J-5000には、ピアノ50曲の演奏データが入っています。付属の『みんなのピアノクラシック名曲50選』の楽譜集には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。



## 操作

### 1 ピアノ曲(プリセットソング)モードに入る

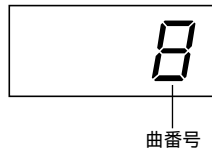
プリセット ソング  
【PRESET SONG】を押します。  
⇒【PRESET SONG】のランプが点灯します。

### 2 選曲と再生スタート

#### 2-1 【-/NO】 + /YES】を押して、聞くピアノ曲を選びます。

1~50: 聞く曲番号を指定して1曲だけ再生するモードです。  
ALL: ピアノ50曲を順番に、ストップするまで連続再生するモードです。

ランダム rnd: ピアノ50曲を順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。



曲番号

#### 2-2 SONG【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

##### 音量の調節

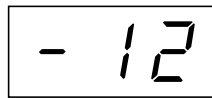
ピアノ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

##### テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが

【TEMPO/FUNCTION】を押してテンポを変更できます。

【**X**】を同時に押すと曲固有のテンポに戻ります。



操作時、曲固有のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50~50)で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)曲固有のテンポのときは「**X**」と表示されます。

##### メトロノームを鳴らす

ピアノ曲の再生と一緒にメトロノームを鳴らすこともできます。

METRONOME【START/STOP】を押すとメトロノームが鳴り、もう一度押すと止まります。

### 3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

・続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

### 4 ピアノ曲モードを抜ける

プリセット ソング  
【PRESET SONG】を押します。  
⇒【PRESET SONG】のランプが消灯します。

👉デモ曲モード(P14)のとき、録音モード(P24)のとき、曲の再生中(P28)は…  
ピアノ曲モードには入れません。

📖SONGソングとは…

J-5000では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

📌Point。再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

📌Point。手弾き音と再生音用に【REVERB】P19を、手弾き音用に【EFFECT】P19【TOUCH】(P20)を切り替えることもできます。

❓テンポのリセット(再設定)  
新しい曲を選ぶとまたは、連続再生で新しい曲がスタートするとテンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

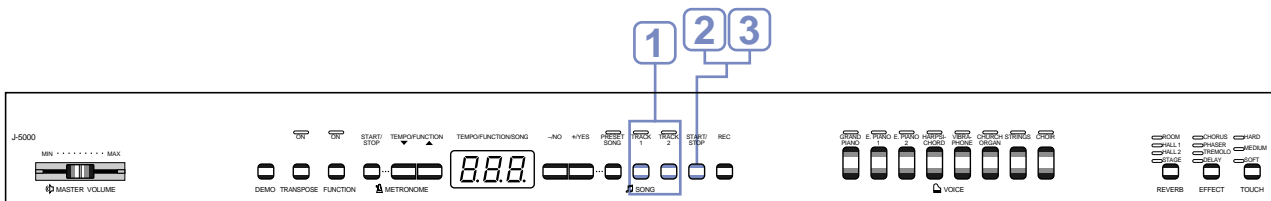
❓【REVERB】は新しい曲を選ぶとまたは、連続再生で新しい曲がスタートすると【HALL1】になります。

👉ピアノ曲の再生データは、MIDI送信されません。また、ピアノ曲モード中はMIDI受信を行いません。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手パートの再生をOFFにしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

# ピアノ50曲の片手練習をする

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれの再生をON/OFFし、再生をOFFにしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【TRACK1】に、左手パートが【TRACK2】に入っています。



## 操作

### 1 練習するパートの再生をOFFにする

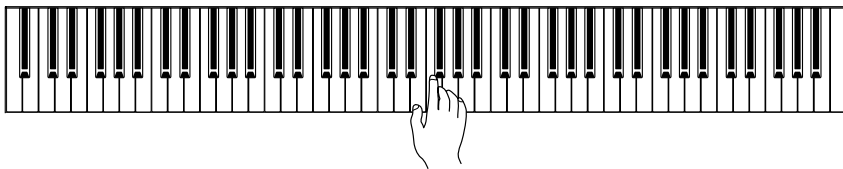
選曲したあと【TRACK1】【TRACK2】の再生をOFFにしたい方を押します。(選曲した時点では【TRACK1】【TRACK2】共ランプが点灯しています。)

⇒ 押した方のボタンのランプが消灯します。

- それぞれのボタンは、押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。

### 2 再生スタート/演奏

SONG【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生をOFFにしたパートをご自分で演奏してください。



#### 弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのパートのボタンを押したまま

SONG【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

⇒ ディスプレイにシンクロスタートのマーク「2」が現れ、点滅します。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

#### 左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

ファンクション(P34)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

### 3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

**Point.** ピアノ50曲をALLとrnd(P15)で再生しているときは、パートの再生をOFFにすることはできません。

**Point.** 再生中の、パートごとの再生ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

**Point.** 再生をOFFにしたパートの音量調節...

再生をOFFにしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調節や、完全に音を消す設定が、ファンクション(P34)でできます。

**Point.** シンクロ = 同時の、同時に起こる

**Point.** 再生OFFのパートのボタンを押したまま SONG【START/STOP】を押すと...

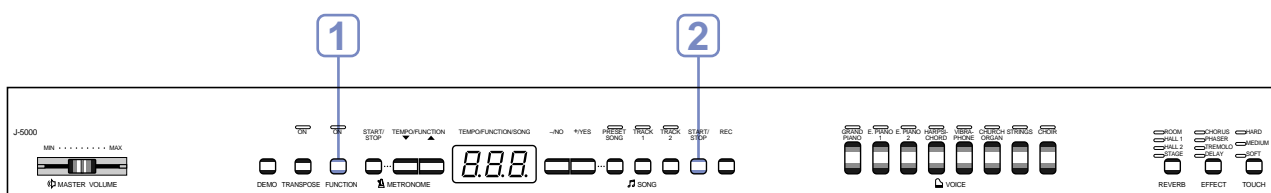
そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

**Point.** パート再生のリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

# ピアノ50曲の部分練習をする

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」も一緒にお使いいただけます。

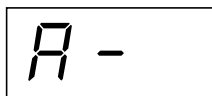


## 操作

### 1 フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

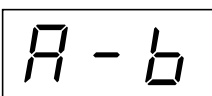
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 始まり(A点)が設定され、ディスプレイに **A-** と表示されます。

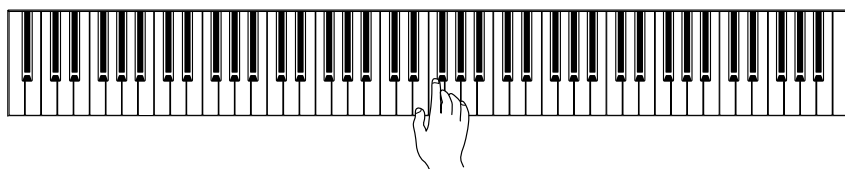


続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 終わり(B点)が設定され、ディスプレイに **A-b** と表示されます。



同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



### 2 練習ストップ

A点、B点の設定を保持したまま一時練習をストップするときはソングSONG【スタート/ストップSTART/STOP】を押します。(この場合、再度ソングSONG【スタート/ストップSTART/STOP】を押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときはもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

オール ランダムピアノ50曲をALLとrnd(P15)で再生しているときは、パートの再生をOFFにすることはできません。

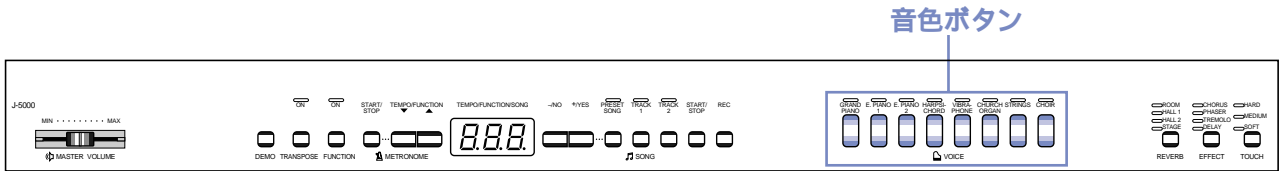
曲の先頭から繰り返しを始めたいときは...再生をスタートする前に【ファンクションFUNCTION】を押して始まり(A点)を設定します。

再生の出だしでタイミングをとるためのタクト音が鳴ります。

新しい曲を選ぶと...A点、B点は自動的に解除されず。

# 音色を楽しむ

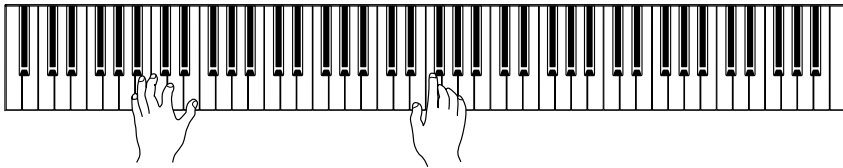
## 音色を選ぶ



### 操作

使いたい音色ボタンを押します。  
⇒ ランプが点灯します。

【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。



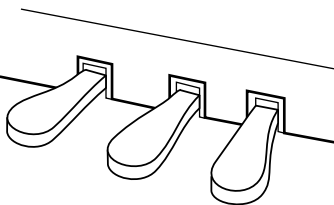
**Point**。音色の特徴をつかむには...  
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P14)  
「音色一覧」(P47)もご参照ください。

音色ボタンの下に印刷されている「<sup>ボイス</sup>VOICE」は、「声」や「音」などの意味があります。

**Point**。タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(P47)もご参照ください。

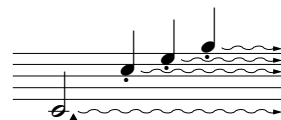
## ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。



### 右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

### まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

**?**。ダンパーペダルが効かない、または踏んでいないのに音が長く響いてしまう...  
ペダルコードのプラグが【<sup>ペダル</sup>PEDAL】端子に差し込まれていないと思われれます。確実に差し込んでください。(P55の手順 5)

**Point**。オルガンやストリングス、クワイアの音色では...  
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

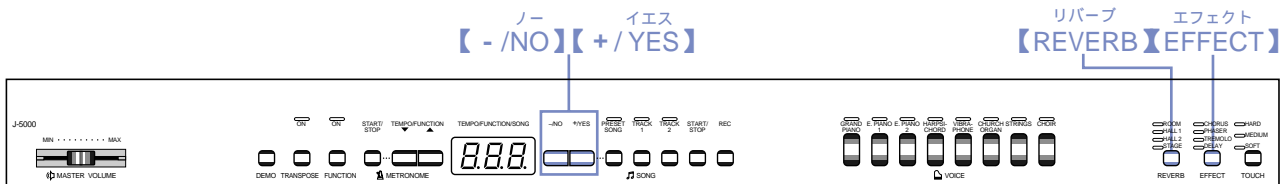


## 左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

**Point**。左のペダルの機能切り替え...  
ファンクション(P34)で左のペダルをパネルのソング【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。

# 音に変化を付ける・・・【REVERB】【EFFECT】



## リバーブ 【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

- オフ： リバーブはかかりません。
- ルーム： 部屋の中にいるような響きになります。
- ホール<sup>1</sup>： 小さいコンサートホールにいるような響きになります。
- ホール<sup>2</sup>： 大きいコンサートホールにいるような響きになります。
- ステージ： ステージにいるような響きになります。

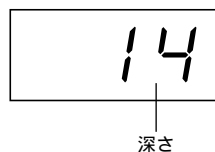
## 操作

リバーブ【REVERB】を押すごとに種類が切り替わります。  
⇒ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

### 深さ(かかり具合)を変える

リバーブ【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。

リバーブ【REVERB】を押したまま【- /NO】または【+ /YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



**Point**。基本設定...  
音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)が設定されています。

基本設定とは...  
本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「基本設定」と呼んでいます。

**Point**。リバーブの種類は...  
リバーブ【REVERB】を押して離れたときに切り替わります。リバーブ【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、リバーブ【REVERB】を離しても種類は切り替わりません。

**Point**。深さ0：効果なし～  
深さ20：深さ最大

**Point**。基本設定...  
音色ごとに標準の深さが設定されています。

## 【EFFECT】

音に効果を付け加えます。  
その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

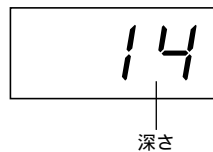
- OFF : エフェクトはかかりません。  
コーラス CHORUS : 広がり感を付けます。  
フェーザー PHASER : 深みを加えます。  
トレモロ TREMOLO : 音量を揺らします。  
ディレイ DELAY : 反響音を付けます。

### 操作

【EFFECT】を押すごとに種類が切り替わります。  
 ↳ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

### 深さ(かかり具合)を変える

【EFFECT】を押している間はディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。  
 【EFFECT】を押したまま【- / NO】または【+ / YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



**Point**。基本設定...

音色ごとにエフェクトの種類(OFFも含む)が設定されています。

**Point**。エフェクトの種類は

【EFFECT】を押して離れたときに切り替わります。【EFFECT】を押したまま深さを変更したときは、【EFFECT】を離しても種類は切り替わりません。

**Point**。深さ0 : 効果なし~  
深さ20 : 深さ最大

**Point**。基本設定...

音色ごとに標準の深さが設定されています。

## タッチ感を変える...【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

- ハード HARD : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。  
ミディアム MEDIUM : 標準的なタッチです。  
ソフト SOFT : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそりやすいタッチです。  
フィックス FIXED : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

**Point**。鍵盤の重さ自体は変わりません。

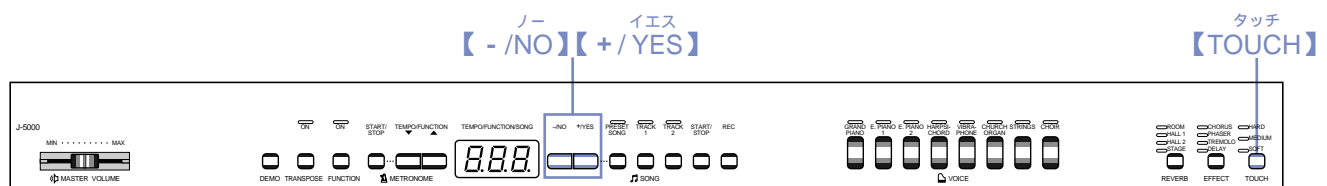


ハード HARD = 「強い」  
ミディアム MEDIUM = 「中間の、中位の」  
ソフト SOFT = 「やさしい、楽な」  
フィックス FIXED = 「固定された」

**Point**。基本設定...

ミディアム MEDIUM

**Point**。タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」(P47)をご参照ください。

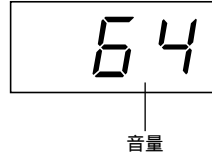


## 操作

【TOUCH】<sup>タッチ</sup>を押すごとに種類が切り替わります。  
⇒ 選ばれている種類のランプが点灯します。FIXED<sup>フィックス</sup>のときは、どのランプも点灯しません。

### FIXED<sup>フィックス</sup>の場合の音量を変える

FIXED<sup>フィックス</sup>を選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)  
【TOUCH】<sup>タッチ</sup>を押している間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。  
【TOUCH】<sup>タッチ</sup>を押したまま【- / NO】<sup>ノー</sup>または【+ / YES】<sup>イエス</sup>を押すと、音量を示す値(1 ~ 127、基本設定 = 64)が変わります。



**Point.** 1 : 最小音量 ~ 127 : 最大音量

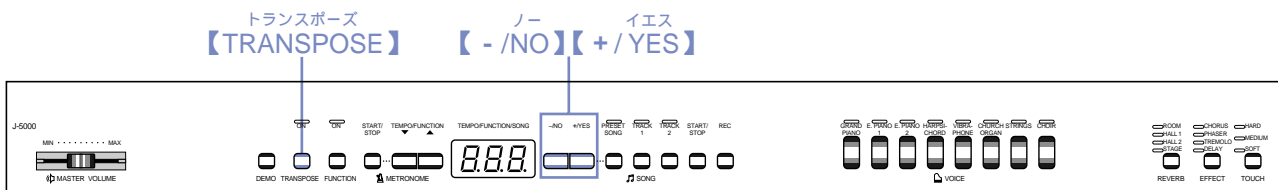
**Point.** FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

**Point.** タッチの種類は TOUCH を押して離れたときに切り替わります。【TOUCH】を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、【TOUCH】を離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

## キー(調)を変える・・・【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>

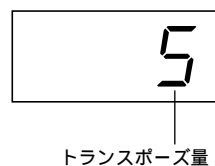
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。

たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。



## 操作

【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。  
【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>を押したまま【- / NO】<sup>ノー</sup>または【+ / YES】<sup>イエス</sup>を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12 ~ 0 ~ 12、基本設定=0)が変わります。



【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>のランプは、【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>を押している間点灯しますが、トランスポーズ量を0以外に設定したときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。  
0以外に設定したあとは、【TRANSPOSE】<sup>トランスポーズ</sup>を押すごとに、トランスポーズのON/OFF<sup>オン/オフ</sup>を切り替えることができます。

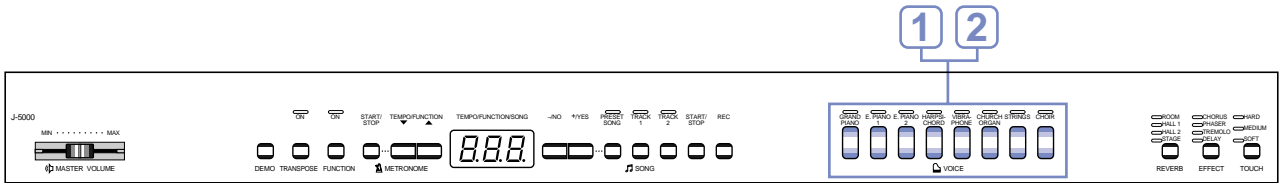
**Point.** TRANSPOSE: 移調する  
移調: 曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

**Point.** トランスポーズ量...  
-12 : -12半音 (-1オクターブ)  
0 : 標準音程  
12 : 12半音 (+1オクターブ)

**Point.** トランスポーズをかけた場合の発音域について...  
トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

# 2つの音色を混ぜる(デュアル)

2種類の音色を混ぜて使うことができます。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりすることができます。



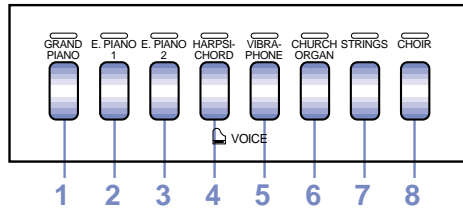
## 操作

### 1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(または1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇨ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。


右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。



デュアルでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF3 (P33)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

### 2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態に戻ります。

 デュアル=2つ

#### デュアルのときの

【REVERB】..

第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(OFFの場合は第2音色のものになります。) 深さは調節 (【REVERB】を押したまま【-/NO】  
【+/YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

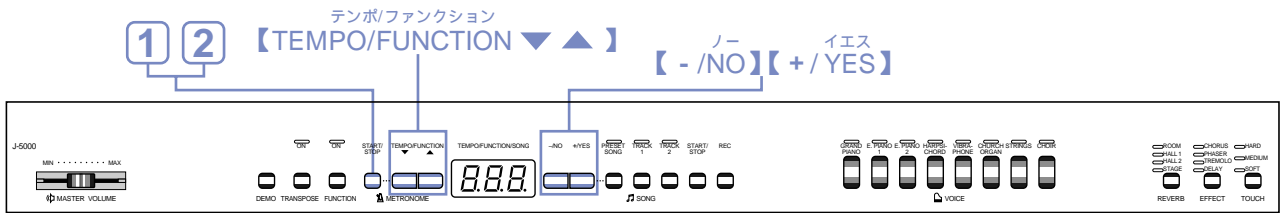
#### デュアルのときの

【EFFECT】..

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF3 (P33)」で音色ごとに任意に設定することもできます。パネルでの深さの調節 (【EFFECT】を押したまま【-/NO】  
【+/YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

# メトロノームを使う (METRONOME)

J-5000は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。



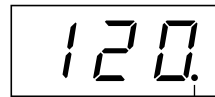
## 操作

### 1 メトロノームを鳴らす

メトロノーム スタート/ストップ  
METRONOME【START/STOP】を押します。  
⇒ メトロノームが鳴り出します。

#### テンポの調節

テンポ/ファンクション  
【TEMPO/FUNCTION】を押すとテンポの値  
(32 ~ 280〔1分間の拍数〕、基本設定=120)が変わります。



メトロノームが鳴っている間、  
テンポに合わせて点滅します。

#### 拍子の設定

メトロノーム スタート/ストップ  
METRONOME【START/STOP】を押している間は  
ディスプレイに拍子が表示されます。  
メトロノーム スタート/ストップ  
METRONOME【START/STOP】を押したまま【-/  
NO】または【+/YES】を押すと、拍子(0、2、3、4、5、6、  
基本設定=0〔無拍子〕)が変わります。



拍子

**Point**。メトロノームの音量は...  
ファンクション (P34) で設定できま  
す。

### 2 メトロノームを止める

メトロノーム スタート/ストップ  
METRONOME【START/STOP】を押します。  
⇒ メトロノームが止まります。



# 演奏を録音(記録)する

J-5000の録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。

練習の中で、ご自身の演奏を録音して聞いてみたり、左手(右手)パートだけ録音しておいて、再生させながら右手(左手)パートを練習したりすることもできます。

また、2つの録音トラックに別々に録音できますので、右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して完成させたりすることもできます。

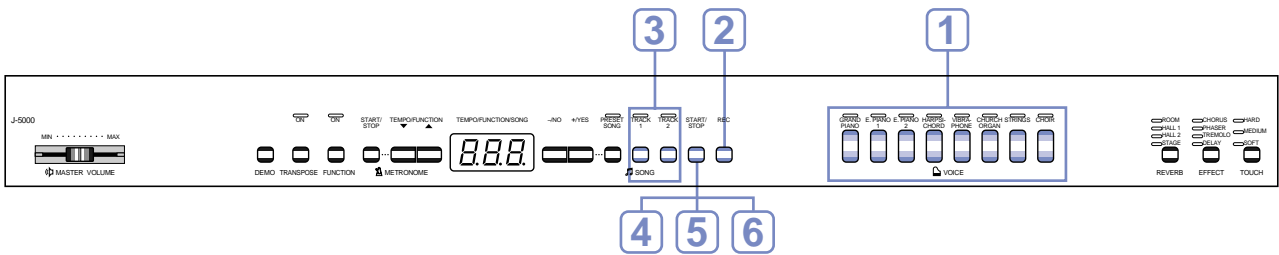
## Point. 別の録音方法...

AUX OUT端子を使ってカセットテープレコーダーなどに接続し、オーディオ録音することもできます。

## 「録音」と「記録」...

カセットテープに録音するのはJ-5000の録音機能を使って録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、J-5000の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで...」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。J-5000の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

## 最初のトラックに録音する



## 操作

### 1 録音済みのトラックに再録音すると...

すでに録音されているトラックに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

### 1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

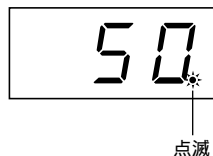
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。【MASTER VOLUME】は弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも【MASTER VOLUME】で音量を調節することができます。

### 2 録音モードに入る

【REC】を押します。

⇒【TRACK 1】または【TRACK 2】のランプが赤く点灯します。

ディスプレイにJ-5000の記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点滅が現在のテンポのタイミングで点滅します。



録音を中止する場合は、もう一度【REC】を押します。

### Point. デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは...

録音モードに入ることはできません。

### Point. 記憶残容量とは...

J-5000に録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、50KB(およそ10,000音符分)となります。

### Point. メトロノームを使う...

METRONOMEを使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

Point. 録音されるデータの種類については、P26をご覧ください。

### 3 録音トラックを選ぶ

【TRACK1<sup>トラック</sup>】または【TRACK2<sup>トラック</sup>】で録音するトラックを選びます。  
⇒ ランプが赤く点灯します。

### 4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音が始まります。または、SONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】を押すと録音が始まります。

⇒ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



### 5 録音をストップする

SONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】または【REC<sup>レコード</sup>】を押します。

⇒ 録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されず。)

### 6 録音した演奏を聞いてみる

SONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】を押すと、今録音した演奏が再生されます。もう一度SONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】を押すと、再生が止まります。

**Point.** 左のペダルを使ってスタートする...

ファンクション(P34)で左のペダルをパネルのSONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

**?** 録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合...

録音中のトラックのランプが赤く点滅します。そして記憶残容量がなくなると画面に「FUL」のメッセージが出て録音は自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

**?** トラックのデータを削除するには...

SONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】で録音を開始し、何もせずSONG【START/STOP<sup>スタート/ストップ</sup>】で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

## 録音し直す

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す  
先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

2 再び録音モードに入る  
再び【REC<sup>レコード</sup>】を押します。  
⇒ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、上記 4 以降の手順に従って録音します。

**!** 曲の途中から録音し直すことはできません。

# 続いて2つめのトラックに録音する

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

- 1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ  
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。
- 2 再び録音モードに入る  
再び【REC】<sup>レコード</sup>を押します。  
⇒ 前に録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。
- 3 録音トラックを選ぶ  
前に録音したトラックと違う方のトラックを選びます。  
⇒ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)  
前に録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

このあと、前記 ④ 以降の手順(P25)に従って録音します。

## 録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。

下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と2つのトラックで共通に録音されるデータがあります。

### トラックごとに録音されるデータ

- ・ ノートデータ(弾いた音) 1
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFF<sup>オン/オフ</sup>
- ・ ソステヌートペダルのON/OFF<sup>オン/オフ</sup> 1
- ・ ソフトペダルのON/OFF<sup>オン/オフ</sup>
- ・ 【REVERB】<sup>リバーブ</sup>の深さ
- ・ 【EFFECT】<sup>エフェクト</sup>の深さ
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス 2
- ・ デュアルデチューン 2
- ・ デュアルオクターブシフト 2

### 2つのトラックで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ 【REVERB】<sup>リバーブ</sup>の種類(OFFも含む)<sup>オフ</sup>
- ・ 【EFFECT】<sup>エフェクト</sup>の種類(OFFも含む)<sup>オフ</sup>

### ②。2つめのトラックに別の曲を録音するには...

前に録音したトラックのデータの再生をOFF<sup>オフ</sup>にして録音します。  
再び録音モードに入る前(手順②の前)に、前に録音したトラックのボタンを押します。  
緑のランプが消灯し、再生がOFF<sup>オフ</sup>になります。

- 1 初期値(曲の先頭に記録されるデータ)としては記録されません。
- 2 録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

# 初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

以下のデータの初期値を変更することができます。

## トラックごとのデータ

音色  
ダンパーペダルのON/OFFオン/オフ  
ソフトペダルのON/OFFオン/オフ  
【REVERB】の深さリバーブ  
【EFFECT】の深さエフェクト  
デュアルの音色

## 2つのトラックに共通のデータ

テンポ  
拍子  
【REVERB】の種類リバーブ(OFFも含む)  
【EFFECT】の種類エフェクト(OFFも含む)

1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。

☞ ランプが赤く点灯します。(2つのトラックで共通に録音されるデータはどちらのトラックを選んで変更されます。)

2 変更したい項目をパネルで操作して変更します。

たとえば、録音した【E. PIANO 1】の音色を【E. PIANO 2】に変更したい場合は、ここで【E. PIANO 2】を押します。  
ここで鍵盤やSONG【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

3 【REC】を押して録音モードを抜けます。

ここでSONG【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

## 録音上のご注意

録音した曲は、電源OFF後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的に緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。また、J-5000にMIDIデータファイラー-MDF3などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」(P36))

録音する際、レコードモードに入る前にあらかじめトラックボタンを押してみて緑に点灯するかどうか確認すると安心です。緑に点灯する場合は、そのトラックに録音済みのデータがあり、再録音すると、そのトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

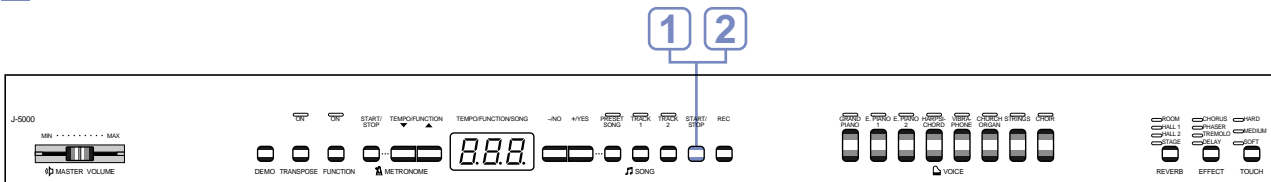
②。初期値変更を中止するには...  
操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

# 録音した曲を再生する

録音機能 (P24~27) を使って録音した曲を再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

## 再生の手順



### 操作

#### 1 再生スタート

ソング スタート/ストップ  
SONG【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色をパネルで選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

#### 音量の調節

マスター ボリューム  
【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

#### テンポの調節

テンポ/ファンクション  
再生スタート前でも再生中でも【TEMPO/FUNCTION】を押してテンポを変更することができます。【**X**】を同時に押すと、録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

#### 2 再生ストップ

ソング  
曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは...再生できません。

録音データがないときはソング【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

Point. 「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

Point. 再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

Point. 再生中に【REVERB】の種類を切り替えた場合...再生中に【REVERB】の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

Point. 再生中に【EFFECT】の種類を切り替えた場合...再生中に【EFFECT】の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音にはエフェクトがかからなくなる場合があります。

Point. トラックの再生ON/OFFの切り替えは...再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生OFFにした場合は、再生スタートできません。(または、再生がストップします。)

Point. 再生をOFFにしたパートの音量は...ピアノ50曲では、再生をOFFにしたパートの音量を調節できます(P16, 34)が、録音した曲を再生する場合、再生をOFFにしたトラックの音量は0に固定です。

## 再生に関する便利な機能

### トラックの再生ON/OFF

録音後は、録音したデータが入っているトラックボタン(【TRACK1】**X**【TRACK2】)の片方または両方のランプが緑に点灯します。

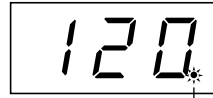
ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。



### 弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。  
再生ONのトラックのボタン(【TRACK1】または【TRACK2】)を押したまま  
SONG【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

□> ディスプレイの右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。  
再生しながらご自身も弾く場合、再生とご自身の演奏の出だしを合わせたいときに便利です。

### 左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。  
ファンクション(P34)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。  
自分が先に弾き出して、途中から再生をスタートさせたいときに便利です。


②再生OFFのトラックのボタンを押したまま  
SONG【START/STOP】を押すと...  
そのトラックの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

# 各種の便利な設定をする・・・

## ファンクション 【FUNCTION】

J-5000では、「音程を微調整」したり、「メロノームの音量を設定」したりなど、いろいろ便利な設定をすることができます。それらをまとめて「ファンクション」と呼んでいます。

 ファンクション=機能

まず、ファンクション一覧表を見てください。  
ファンクションには大項目が8個(F1～F8)あります。  
大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

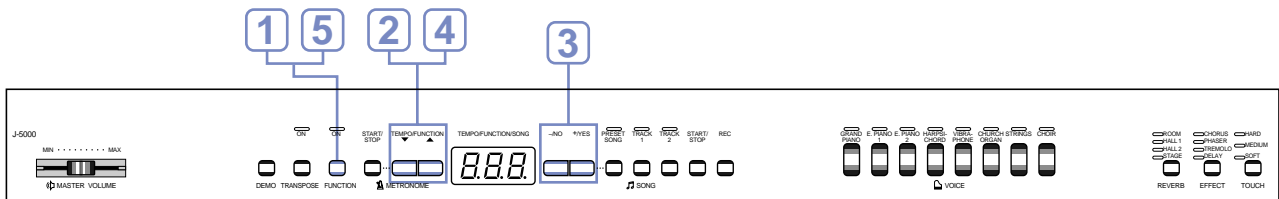
### ファンクション一覧

大項目	小項目	ファンクションNo.	ページ
音程の微調整	-	F1	32
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	32
	基音の設定	F2.2	33
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	33
	2音色の音程を微妙にずらす設定	F3.2	33
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	33
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	33
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	33
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	33
	基本設定に戻す操作	F3.7	34
ペダルの諸設定	左ペダル機能の設定	F4	34
メロノーム音量の設定	-	F5	34
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	-	F6	34
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	F7.1	35
	MIDI受信チャンネルの設定	F7.2	35
	ローカルコントロールON/OFFの設定	F7.3	35
	プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定	F7.4	35
	コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定	F7.5	36
	MIDI送信データにトランスポーズをかける設定	F7.6	36
	セットアップデータのMIDI送信	F7.7	36
	録音データのバルク送信	F7.8	36
バックアップON/OFFの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F8.1	37
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F8.2	37
	音程、音律関連項目のバックアップ設定	F8.3	37
	ペダル関連項目のバックアップ設定	F8.4	37

# ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



## 操作

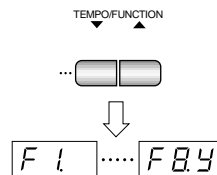
### 1 ファンクションモードに入る

【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ「F\*.\*」になります。( \*.\*のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。)

### 2 大項目を選ぶ

【TEMPO/FUNCTION】でファンクションの大項目(F1～F8)を選びます。



### 3 【-/NO】【+/YES】で...

小項目がない場合：直接設定の操作に入ります。

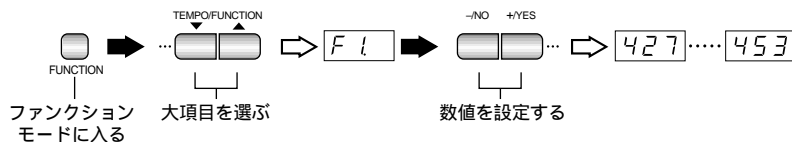
小項目がある場合：【+/YES】で小項目を選択する操作に進みます。

### 4 これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

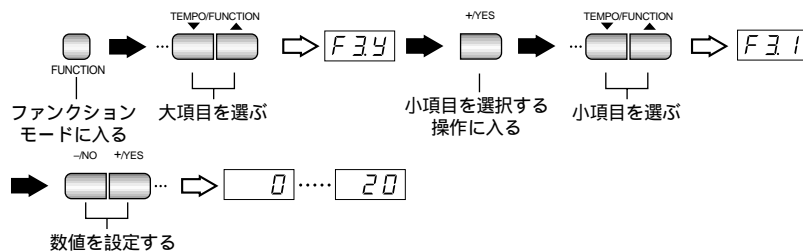
【TEMPO/FUNCTION】大項目または小項目の選択に使用します。

【-/NO】【+/YES】大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。  
【-/NO】【+/YES】を同時に押すと基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻る場合があります。

#### 操作例1( F1「音程の微調整」)



#### 操作例2( F3.1「デュアルの音色の音量バランスの設定」)



### 5 操作が完了したら...

【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、ディスプレイがテンゴ表示に戻ります。

👉 デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのとき、曲の再生中、録音中は... ファンクションモードに入ることはできません。

👉 手順 2 3 4 でファンクションの操作を中止したいときは... 【FUNCTION】を押せばいつでもファンクションモードから抜けることができます。

📌 Point. 項目を選んだあと、最初に【-/NO】【+/YES】を押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

# 各ファンクション項目の説明

## F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音程を正確に合わせたい場合に使います。

① ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

② **【 - /NO】** **【 + /YES】** で、A3の鍵盤の音程をHzの数値で設定します(約0.2Hz単位)

⇒ **427** ... **440** ... **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「**.**」で示されます。

表示	値
440	440.0
440	440.2
440	440.4
440	440.6
440	440.8

設定範囲:  
427.0 ~ 453.0(Hz)  
基本設定:  
440.0(Hz)

ヘルプ Hzとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

**Point.** 鍵盤を使った設定方法もあります...(ファンクションモードでないとときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

音程を下げる(約0.2Hz単位)...

A-1とA#1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

基本設定に戻す...

A-1とA#1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す。

・ 鍵盤と鍵盤名の対応については、P12「各部の名前」をご参照ください。

(上記操作中、ディスプレイがHz表示 **427** ... **453** )  
に切り替わります。操作後、元のディスプレイに戻ります。)

**Point.** 約1Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないとときに操作できます。)

約1Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#1(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【 - /NO】** **【 + /YES】** を押す。

基本設定に戻す...

「A-1とB-1」または「A-1とA#1(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【 - /NO】** **【 + /YES】** を同時に押す。

(上記操作中、ディスプレイがHz表示 **427** ... **453** )  
に切り替わります。操作後、元のディスプレイに戻ります。)

## F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律(Equal Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調)(Pure Temperament Major)

純正律(短調)(Pure Temperament minor)  
自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律(Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律(Meantone Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律(Werckmeister)

キルンベルガー音律(Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するものが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F24** を選びます。

2 【+ /YES<sup>イエス</sup>】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION<sup>テンポ/ファンクション</sup>】で以下の小項目を選び、【- /NO<sup>ノー</sup>】【+ /YES<sup>イエス</sup>】で設定します。

### 小項目

#### **F21** 音律(調律法)の種類の設定

設定範囲: 1..... 平均律  
2..... 純正律(長調)  
3..... 純正律(短調)  
4..... ピタゴラス音律  
5..... 中全音律  
6..... ヴェルクマイスター音律  
7..... キルンベルガー音律

基本設定: 1..... 平均律

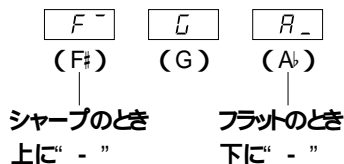
#### **F22** 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B

基本設定: C

#### ・ 基音表示の例



## F3. デュアルの諸設定


デュアルモードでの各種設定をします。

2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。

音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F34** を選びます。

2 【+ /YES<sup>イエス</sup>】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION<sup>テンポ/ファンクション</sup>】で以下の小項目を選び、【- /NO<sup>ノー</sup>】【+ /YES<sup>イエス</sup>】で設定します。

 デュアルモードでないときは...

1での表示が **F3-** になり、【+ /YES<sup>イエス</sup>】を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることできます。

### 小項目

#### **F31** 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

#### **F32** 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲: -10~0~10(+方向で第1音色の音程が高く、第2音色の音程が低くなる。

-方向で第2音色の音程が高く、第1音色の音程が低くなる。)

**Point.** ずらすことができる音程幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音です。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

#### **F33** 第1音色のオクターブシフトの設定

#### **F34** 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1、0、1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

#### **F35** 第1音色のエフェクトの深さの設定

#### **F36** 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。

エフェクトがOFF<sup>オフ</sup>のときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

・「第1音色」「第2音色」については、P22をご覧ください。

### F37 基本設定に戻す操作

【+ /YES】を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

#### Point ショートカット操作...

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの【F37】に入ることができます。この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

## F4. 左ペダル機能の設定

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、曲のスタート/ストップ機能（パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能）に切り替えることができます。

1 ファンクションモードに入り、大項目【F4】を選びます。

2 【- /NO】【+ /YES】で設定します。

選択範囲: 1(ソフトペダル) 2(スタート/ストップ)  
基本設定: 1(ソフトペダル)

## F5. メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。  
メトロノームの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

1 ファンクションモードに入り、大項目【F5】を選びます。

2 【- /NO】【+ /YES】で設定します。

設定範囲: 1~20  
基本設定: 10

#### Point ショートカット操作...

メトロノームスタート/ストップファンクションMETRONOME【START/STOP】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの【F5】に入ることができます。この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

## F6. ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定

J-5000に入っているピアノ50曲（プリセットソング）の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

1 ファンクションモードに入り、大項目【F6】を選びます。

2 【- /NO】【+ /YES】で設定します。

選択範囲: 0~20  
基本設定: 5



## F7. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。  
MIDIについての簡単な紹介が「MIDIについて」  
(P38)にあります。ご参照ください。

**Point.** 【MIDI端子】を使う場合は、HOST SELECTスイッチをMIDIに設定してください。  
【TO HOST】端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを、接続するコンピューターの種類に応じて、正しく設定してください。(P40～43)  
ここでのMIDIに関する設定は、【TO HOST】端子での信号の入出力に対しても有効です。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F74** を選びます。

2 【+ /YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION】で以下の小項目を選び、【- /NO】【+ /YES】で設定します。

### 小項目

#### F71 MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでJ-5000からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1～16、OFF(送信しない)

基本設定: 1

#### ②.デュアルのときの第2音色は...

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。)

👉 デモ曲/ピアノ50曲(プリセットソング)の再生データ、録音した曲の再生データはMIDI送信されません。

#### F72 MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでJ-5000がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: ALL、1&2、1～16

基本設定: ALL

#### Point. ALLの場合は...

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。  
この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、J-5000で受信して再生させることができます。

#### Point. 「1 & 2」の場合は...

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、J-5000本体で再生することができます。

**Point.** J-5000では、J-5000本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

👉 デモ曲/ピアノ50曲(プリセットソング)モード中は、MIDI受信を行いません。

#### F73 ローカルコントロールON/OFFの設定

通常、J-5000の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールON」と呼ばれます。「ローカルコントロールをOFF」にすると「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもJ-5000からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、J-5000では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときに、ローカルコントロールをOFFにします。

選択範囲: ON/OFF

基本設定: ON

#### F74 プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。  
たとえばJ-5000からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(J-5000のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをJ-5000が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はONに、連動させたくない場合は、OFFにします。

**Point.** 各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP49をご覧ください。

選択範囲: ON/OFF

基本設定: ON

## F75 コントロールチェンジ送受信<sup>オン/オフ</sup> ON/OFFの設定

MIDI<sup>ミディ</sup>で送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばJ-5000からコントロールチェンジを送信するとMIDI<sup>ミディ</sup>接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(J-5000でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI<sup>ミディ</sup>接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをJ-5000が受信すると、同時に受信しているMIDI<sup>ミディ</sup>の演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はONに、できないほうが便利な場合は、OFFにします。

**Point.** J-5000がコントロールチェンジとして扱える情報については「MIDIデータフォーマット」のP49をご覧ください。

選択範囲: ON/OFF<sup>オン/オフ</sup>  
基本設定: ON<sup>オン</sup>

## F76 MIDI送信データにトランスポーズをかける設定

MIDI<sup>ミディ</sup>送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲: -12~0~12(半音単位)  
基本設定: 0

## F77 セットアップデータのMIDI<sup>ミディ</sup>送信

J-5000のパネル設定状態のセットアップデータを、MIDI<sup>ミディ</sup>接続したMIDIデータファイラー-MDF3やシーケンサーなどに送信します。

MDF3や外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップデータを送信して記録しておく、再生しながらの演奏の際、便利です。

**Point.** セットアップデータとは...

J-5000のパネル設定状態一式のデータです。

### 操作

送信するパネル設定を作ります。

- ▶ シーケンサーなどとMIDI<sup>ミディ</sup>接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
  - ▶ ファンクションモードに入って「F77」を選びます。
  - ▶ 【+/YES<sup>イエス</sup>】を押すと送信が実行されます。
- ⇒ **End**

### **Point.** 送信される「セットアップデータ」の内容...

「MIDIデータフォーマット」のP50(パネルデータ詳細)に掲載されている内容が送信されます。

### **Point.** 送信したデータの受信方法...

データを送信した機器とJ-5000をMIDI<sup>ミディ</sup>接続します。

- ▶ データを送信した機器側で送信操作をします。
  - ⇒ 自動的にJ-5000がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。
- (送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

**Point.** セットアップデータMIDI<sup>ミディ</sup>送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書をご覧ください。

## F78 録音データのバルク送信

MIDIデータファイラー-MDF3やシーケンサーなどをJ-5000に接続し、J-5000で録音したデータをMIDI<sup>ミディ</sup>のバルクデータとして送信し、ディスクに保存しておくことができます。

保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器からJ-5000本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

**Point.** バルクデータとは...

MIDI<sup>ミディ</sup>で、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

### 操作

J-5000で演奏を録音します。

- ▶ MIDIデータファイラー-MDF3などとMIDI<sup>ミディ</sup>接続し、MDF3などの側のバルクデータ受信準備を整えます。
  - ▶ ファンクションモードに入って「F78」を選びます。
  - ▶ 【+/YES<sup>イエス</sup>】を押すと送信が実行されます。
- ⇒ **End**

**Point.** バルクデータ送信中は、手弾き音のデータやパネル情報はMIDI<sup>ミディ</sup>送信されません。また、MIDI<sup>ミディ</sup>受信を行いません。

### **Point.** 送信したデータの受信(送り戻し)方法...

データを送信した機器とJ-5000をMIDI<sup>ミディ</sup>接続します。

- ▶ データを送信した機器側で送信操作をします。
  - ⇒ 自動的にJ-5000がそのデータを受信し、本体内にデータが入ります。(このとき、本体内にあったデータは消されます。)
- このあと、通常の再生操作で再生できます。
- (送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

**Point.** デモ曲モードのとき、ピアノ曲(プリセットソング)モードのとき、ファンクションモードのとき、録音モードのときと再生中は、バルクデータ受信はできません。

**Point.** バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書をご覧ください。

## F8. バックアップ<sup>オン/オフ</sup>ON/OFFの設定

### バックアップとは...

ご自身で設定した音色選択や、リバーブのタイプなどをはじめとする設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。

バックアップを<sup>オン</sup>にしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。

バックアップを<sup>オフ</sup>にしておくと、電源を<sup>オフ</sup>にした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻ります。(基本設定一覧がP48に掲載されています。)

ただし「本体内に録音された演奏データ」<sup>オン/オフ</sup>「ここでのバックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

① バックアップの設定を<sup>オン</sup>にしても、電源を切つて約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源を<sup>オン</sup>にしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのON/OFFを設定します。

① ファンクションモードに入り、大項目 **F8.4** を選びます。

② **【+ /YES】**を押して確定し、**【TEMPO/FUNCTION】**で以下の小項目を選び、**【- /NO】****【+ /YES】**で設定します。

### 小項目

**F8.1** 音色関連項目のバックアップ設定

**F8.2** <sup>ミディ</sup>MIDI関連項目のバックアップ設定

**F8.3** 音程、音律関連項目のバックアップ設定

**F8.4** ペダル関連項目のバックアップ設定

設定範囲: <sup>オン/オフ</sup>ON/OFF

基本設定: <sup>オフ</sup>OFF(すべてのグループ)

### ・各小項目の内容

#### **F8.1** 音色関連項目のバックアップ設定

- ・ 音色選択
- ・ デュアルモードの<sup>オン/オフ</sup>ON/OFFと音色
- ・ デュアルの諸設定( **F3\*** )の設定内容(音色の組み合わせごと)
- ・ リバーブの種類と深さ(音色ごと)
- ・ エフェクトの種類と深さ(音色ごと)
- ・ タッチの設定( <sup>フィックス</sup>FIXED時の音量も含む)
- ・ 外ロノームの拍子と音量(音量は、**F5** または **F6** の設定内容)
- ・ ピアノ50曲のパート再生<sup>オフ</sup>OFF時の音量設定( **F6** または **F7** の設定内容)

#### **F8.2** <sup>ミディ</sup>MIDI関連項目のバックアップ設定

<sup>ミディ</sup>MIDI機能の諸設定( **F7\*** または **F8\*** の設定内容)( **F7.7** **F7.8** または **F8.7** **F8.8** を除く)

#### **F8.3** 音程、音律関連項目のバックアップ設定

- ・ トランスポーズの設定
- ・ 音程の微調整( **F1** の設定)
- ・ 音律(調律法)の種類と基音の設定( **F2.\*** の設定内容)

#### **F8.4** ペダル関連項目のバックアップ設定

- ・ 左ペダル機能の設定( **F4** または **F5.1** )

基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻すには...

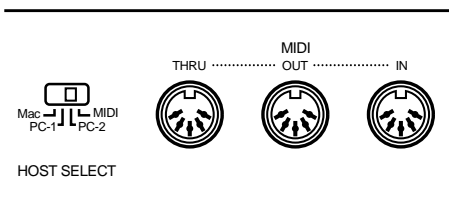
いったん電源を<sup>オフ</sup>OFFにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源を<sup>オン</sup>ONにします。

この操作でいつでも基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)に戻すことができます。(ここでのバックアップ<sup>オン/オフ</sup>ON/OFFの設定も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体内に録音された演奏データも消えます。(基本設定一覧がP48に掲載されています。))

# MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とパーソナルコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とパーソナルコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、J-5000から外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やパーソナルコンピューターからJ-5000をコントロールしたりすることができます。

## MIDI端子



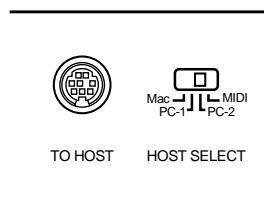
**MIDI【IN】:** MIDIデータを受信する端子です。  
**MIDI【OUT】:** MIDIデータを送信する端子です。  
**MIDI【THRU】:** MIDI【IN】から入ってきたデータをそのまま送信する端子です。

## MIDIケーブル

専用のMIDIケーブルをご用意ください。

## 【TO HOST】端子

J-5000とパーソナルコンピューターを接続する場合に使います。



Point。MIDIでは、演奏データや命令を、数値に置き替えたデータで送受信します。

Point。MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。J-5000のMIDIインプリメンテーションチャートはP52に掲載されています。

Point。MIDI端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定してください。( P42 )

## Point。YAMAHA MIDIケーブル...

MIDI0ㄥ (長さ1m, 税別価格:800円)  
MIDI0ㄱ (長さ3m, 税別価格:1,100円)  
MIDI1ㄱ (長さ15m, 税別価格:3,000円)

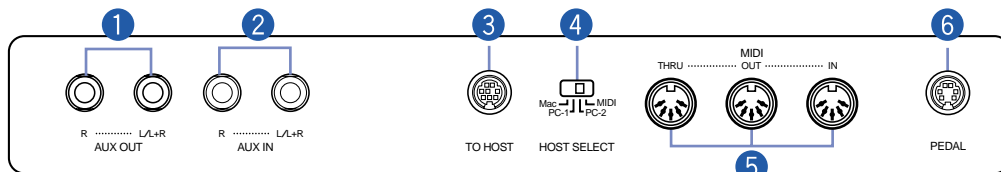
Point。【TO HOST】端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを接続するコンピューターの種類に応じて、正しく設定してください。( P42 )

Point。MIDIについての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

# 他の機器と接続する

## 端子について

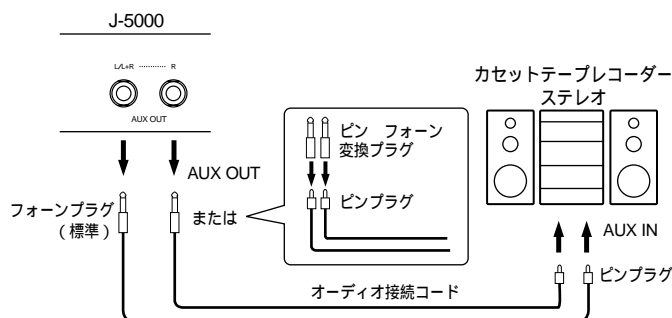
- ❗ 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。  
感電または機器の損傷のおそれがあります。



### 1 AUX OUT【R】L/L+R】端子

J-5000をステレオなどに接続してより大きな音を出したり、カセットテープレコーダーなどに接続して演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。音量は、J-5000の【MASTER VOLUME】ではなく、ステレオ/カセットテープレコーダーなどの側で調節してください。

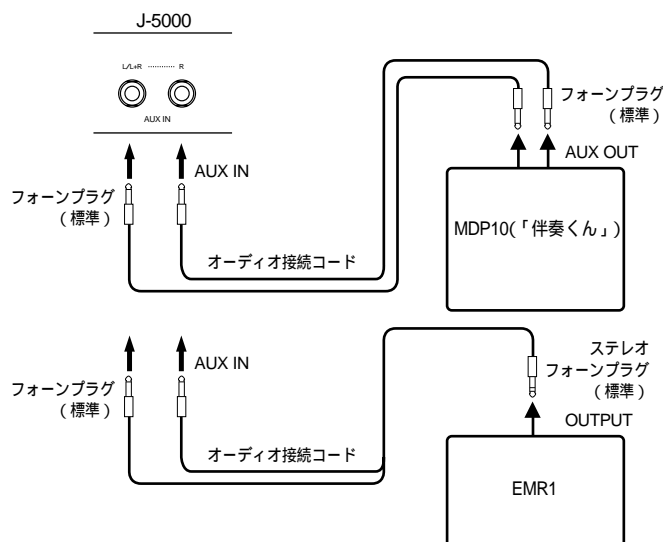
- ❗ J-5000のAUX OUTを使う場合、電源を入れるときはJ-5000 外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器 J-5000の順に行なってください。



### 2 AUX IN【R】L/L+R】端子

MDP10(「伴奏くん」) (P46)やEMR1などの外部機器の音をJ-5000本体のスピーカーから出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

- ❗ J-5000のAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器 J-5000の順に、電源を切るときは、J-5000 外部機器の順に行なってください。



- ⊘ AUX OUT から出力した音を、AUX IN に戻さないでください。(AUX OUT から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びJ-5000のAUX IN に接続しないでください。)

J-5000のAUX IN から入力された音はそのままJ-5000のAUX OUT から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX IN からの入力音にはJ-5000本体の【MASTER VOLUME】は効きますが、【REVERB】や【EFFECT】は効きません。

J-5000の【MASTER VOLUME】はAUX OUTからの出力音には効きません。

モノ入力、モノ出力には、AUX IN【L/L+R】、AUX OUT【L/L+R】をご使用ください。



### ③ 【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>端子

パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。  
(詳しくは次項「パーソナルコンピューターと接続する」をご覧ください。)

### ④ HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチ

MIDI<sup>ミディ</sup>機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に、機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り替えるスイッチです。  
(詳しくは次項「パーソナルコンピューターと接続する」をご覧ください。)

### ⑤ MIDI<sup>ミディ</sup>【IN】<sup>アウト</sup>【OUT】<sup>スルー</sup>THRU】端子


MIDI<sup>ミディ</sup>接続専用のケーブルを使って外部MIDI<sup>ミディ</sup>機器と接続する端子です。  
MIDI<sup>ミディ</sup>端子を使う場合は上記HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチを【MIDI<sup>ミディ</sup>】に設定してください。  
(MIDI<sup>ミディ</sup>については「MIDI<sup>ミディ</sup>について」(P38)をご覧ください。)

### ⑥ 【PEDAL】<sup>ペダル</sup>端子

本体のペダルコードを接続する端子です。  
(P54からのJ-5000の組み立て方をご覧ください。)

## ■ パーソナルコンピューターと接続する

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、J-5000の【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>またはMIDI<sup>ミディ</sup>端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

 J-5000を音源として使う場合、J-5000にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

### 「パソコン活用マニュアル こんなことができます! クラビノーバ+パソコン」について

J-5000とパーソナルコンピューターを接続してどんなことができるのか、また接続に必要なものや接続の仕方などについて、わかりやすく説明したオンラインマニュアル(PDF)を、インターネットのホームページ(下記)に掲載しております。閲覧/ダウンロードしてぜひご利用ください。

クラビノーバホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>

マニュアルライブラリー(電子楽器/XG)


[http://www2.yamaha.co.jp/manual/emi/index\\_j.html](http://www2.yamaha.co.jp/manual/emi/index_j.html)


(クラビノーバのページに掲載してあります。初回だけ登録していただく必要があります。)


J-5000とコンピューターを接続する場合、3つの方法があります。


1. コンピューターのシリアルポートと、J-5000の【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>端子を使った接続方法(P41)
2. MIDI<sup>ミディ</sup>インターフェース機器と、J-5000のMIDI<sup>ミディ</sup>端子を使った接続方法(P42)
3. コンピューターのUSB端子と、USBインターフェース機器を使った接続方法(P43)

詳しくは次ページ以降をご覧ください。

 パーソナルコンピューターと接続する場合は、最初に、J-5000とコンピューターの電源を切った状態でケーブル接続、HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチの設定を行ない、その後コンピューター J-5000の順番で、電源を入れてください。

 J-5000の【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>端子を使用しない場合は、必ず【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、J-5000が正常に動作しないことがあります。

 ディスプレイに **HSF** と表示された場合は、コンピューターの電源が切れているか、ケーブルが正しく接続されていない、または、HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチが正しく設定されていないか、コンピューター側のドライバーやMIDI<sup>ミディ</sup>アプリケーションが正しく機能していません。この場合は、いったんJ-5000とコンピューターの電源を切り、ケーブルの接続、HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチの設定を確認してください。その後、コンピューター J-5000の順番で電源を入れ直し、コンピューター側のドライバーやMIDI<sup>ミディ</sup>アプリケーションが正しく機能しているか確認してください。

 HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチを【PC-2】<sup>ホストセレクト</sup>【PC-1】<sup>ホストセレクト</sup>【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>端子が使えますが、MIDI<sup>ミディ</sup>端子【IN】<sup>イン</sup>【OUT】<sup>アウト</sup>【THRU】<sup>スルー</sup>共)は使えません。(MIDI<sup>ミディ</sup>データを送受信しません。)

逆に、HOST SELECT<sup>ホストセレクト</sup>スイッチを【MIDI】<sup>ミディ</sup>に設定しているときは、MIDI<sup>ミディ</sup>端子【IN】<sup>イン</sup>【OUT】<sup>アウト</sup>【THRU】<sup>スルー</sup>共)が使えますが、【TO HOST】<sup>トゥーホスト</sup>端子は使えません。(データを送受信しません。)





## J-5000のHOST SELECTスイッチの設定

接続するパーソナルコンピュータの種類によって、J-5000のHOST SELECTスイッチを切り替えます。

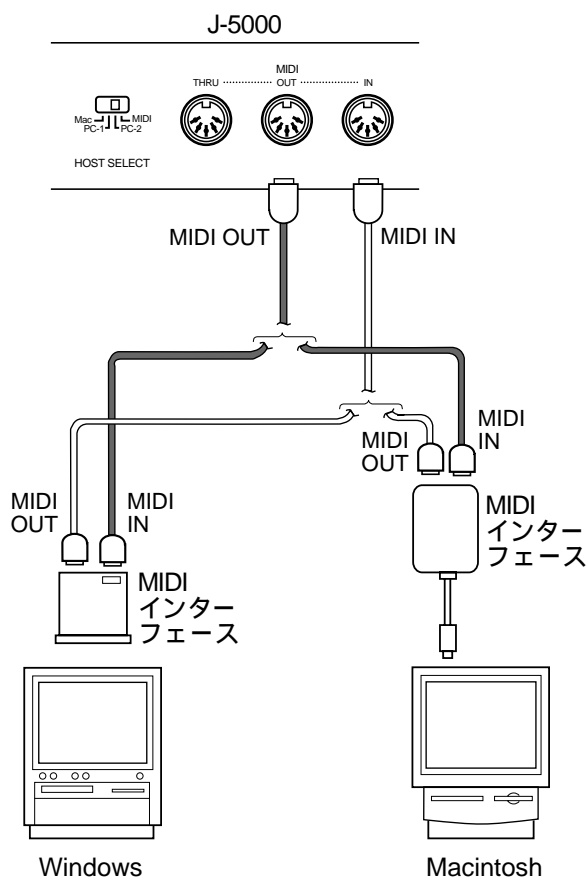
- Macintosh:  
【Mac】(ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用)
- Windows:  
【PC-2】(ボーレート=38,400bps)

**Point.** 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するボーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。(【PC-1】のボーレートは、31,250bpsです。)

## 2. MIDIインターフェース機器と、J-5000のMIDI端子を使った接続方法

### 接続方法

MIDIインターフェース機器を通じてJ-5000のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



**Point.** YAMAHA MIDIケーブル...  
MIDI01(長さ1m, 税別価格:800円)  
MIDI03(長さ3m, 税別価格:1,100円)  
MIDI15(長さ15m, 税別価格:3,000円)

## J-5000のHOST SELECTスイッチの設定

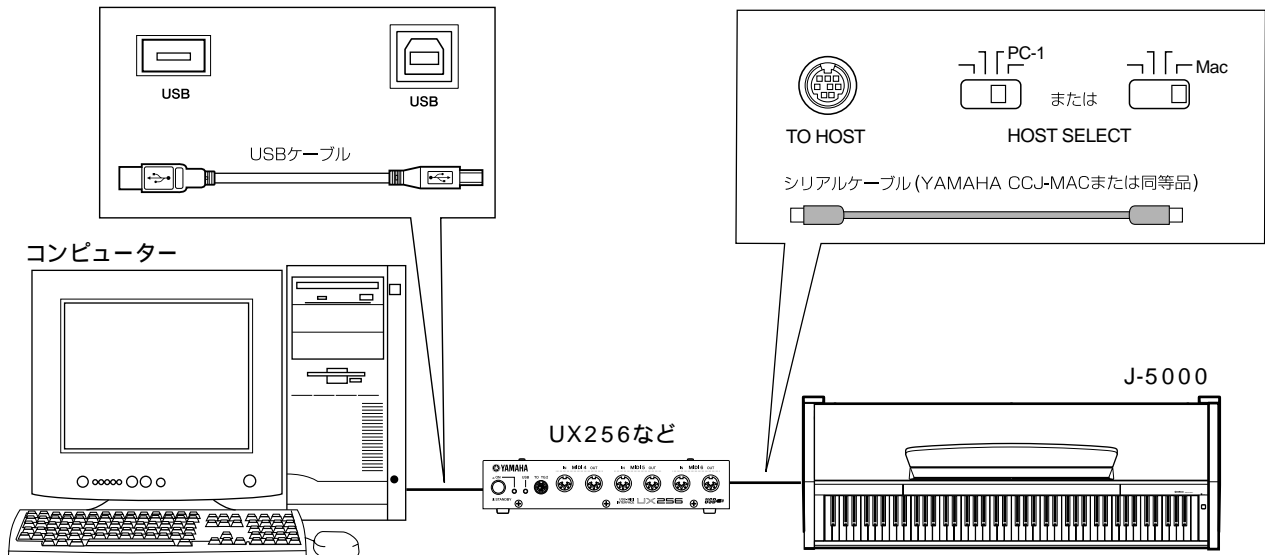
J-5000のHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

### 3. コンピューターのUSB端子と、USBインターフェース機器を使った接続方法

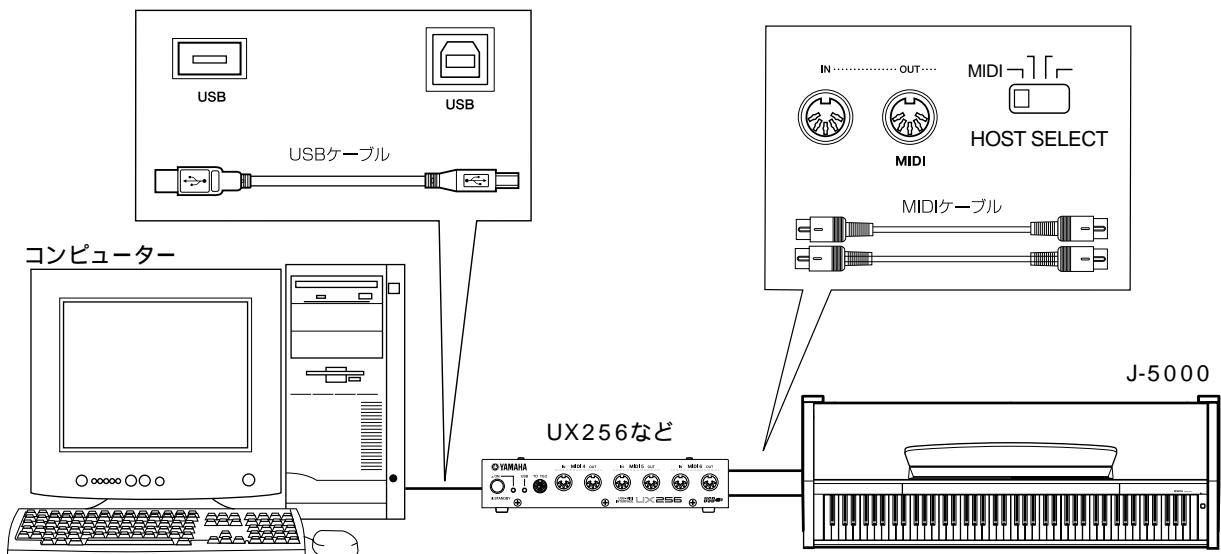
コンピューターのUSB端子と、USBインターフェース機器(UX256など)をUSBケーブルで接続します。USBインターフェースに付属のドライバーをインストールします。USBインターフェースとJ-5000をシリアルケーブル(CCJ-MACなど)またはMIDIケーブルで接続します。

詳しくは、USBインターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

#### ・ USBインターフェース機器とJ-5000をシリアルケーブルでつなぐ場合



#### ・ USBインターフェース機器とJ-5000をMIDIケーブルでつなぐ場合



# 故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
J-5000の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P9)
【POWER】 <sup>パワー</sup> を押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
J-5000から雑音が出る。	J-5000の近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)	J-5000の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。J-5000の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME】 <sup>マスター ボリューム</sup> が下がっています。	【MASTER VOLUME】 <sup>マスター ボリューム</sup> を上げてください。(P10)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P10)
	ローカルコントロールがOFFになっています。	ローカルコントロールをONにしてください。(P35)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう	ペダルコードのプラグが【PEDAL】 <sup>ペダル</sup> 端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを【PEDAL】 <sup>ペダル</sup> 端子に確実に差し込んでください。(P54からの「J-5000の組み立て方」を参照してください。)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	J-5000の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

**ノート** ディスプレイに **Err** が表示された場合は、J-5000の内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

# 付 録

J-5000をMDP1α(「伴奏くん」)と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

---

MDP1α(「伴奏くん」)を使ってミュージックデータを楽しむ .....	46
音色一覧 .....	47
デモ曲一覧 .....	47
基本設定一覧 .....	48
MIDIデータフォーマット .....	49
別売品のご紹介 .....	53
仕様 .....	53
J-5000の組み立て方 .....	54
索引 .....	56
保証とアフターサービス .....	59

# MDP10(「伴奏くん」)を使ってミュージックデータを楽しむ

・ MDP10とは---



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。下記にご紹介するミュージックデータをはじめとした幅広い種類のミュージックデータを簡単操作で再生できます。J-5000と組み合わせて使うと、ミュージックデータを再生しながらのアンサンブル演奏や練習ができます。

## MDP10で再生できる主な ヤマハ別売ミュージックデータのご紹介

- ・「ピアノソフト」  
ピアノ演奏データのソフトです。  
内外の一流ピアニストの演奏が収録されています。お手本にもなる正統派の演奏から、華麗なるアレンジによる演奏までお楽しみいただけます。  
一部MDP10ではご利用いただけません。
- ・「ピアノ アンサンブル」  
メインのピアノ演奏パートと多音色のバックアンサンブルパートから成る演奏データソフトです。鑑賞するだけでなく、アンサンブルパートをバックにピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。
- ・「ピアノ アソシエ」  
テキストとオーケストラ伴奏データなどが入った専用ディスクソフトを活用するピアノレッスンメソッドです。MDP10でこの専用ディスクソフトを再生して、ピアノレッスンに活用することができます。
- ・「XGソングデータライブラリー」  
ヤマハの音源フォーマット「XG」に準拠した曲データです。多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。
- ・ 伴奏くんレパートリー集「楽器でうたおう」  
カラオケ感覚でどんな楽器でも気軽にアンサンブルが楽しめる演奏データです。楽譜付きです。

### ミュージックデータについて

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭に設置されているMuma専用コンピューターで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取りそろえられています。

上記およびその他のミュージックデータについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

## J-5000とMDP10を組み合わせてミュージックデータを楽しむ方法

J-5000とMDP10を組み合わせて使うと、下記のようなことができます。特別な接続は必要ありません。

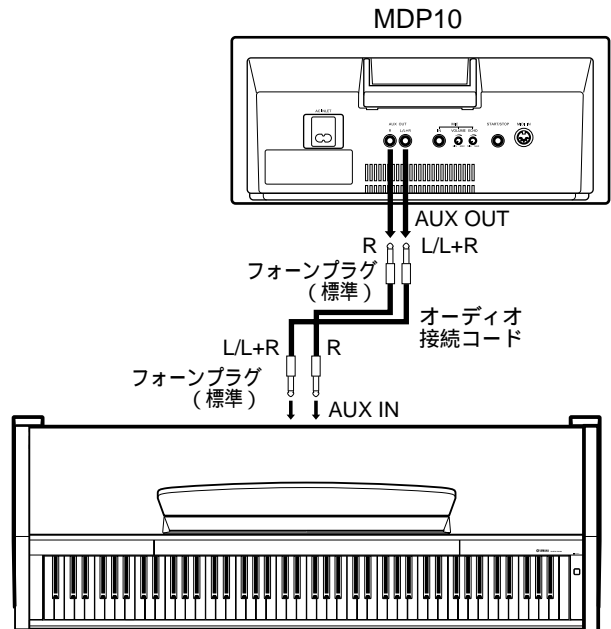
### ミュージックデータを再生しながらJ-5000で アンサンブル演奏

MDP10で曲データの伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをJ-5000でご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。

### ミュージックデータを使ってJ-5000の練習

- ・ 右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトを使うと、練習したいパートの再生をOFFにしてJ-5000で片手練習することができます。
- ・ 曲中のフレーズを設定してくり返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます。

J-5000とMDP10を接続して楽しむこともできます。J-5000とMDP10を接続しなくても上記のような楽しみ方ができますが、下図のように接続すると、ご自身の演奏音と一緒に、曲の再生音もJ-5000のスピーカーから出すことができ、より豊かな音で楽しむことができます。



MDP10の取扱説明書も合わせてご参照ください。

# 音色一覧

	ステレオ/モノ	タッチによる音の強弱	ダイナミックサンプリング <sup>1)</sup>	音色のご紹介
<b>GRAND PIANO</b> (グランドピアノ)	ステレオ			フルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
<b>E. PIANO 1</b> (エレクトリックピアノ1)	ステレオ			FMシンセサイザーによる電子ピアノの音。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。
<b>E. PIANO 2</b> (エレクトリックピアノ2)	モノ			金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
<b>HARPSICHORD</b> (ハーpsiコード)	ステレオ			バロック音楽でよく使われる楽器。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
<b>VIBRAPHONE</b> (ビブラフォン)	ステレオ			比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音。強く弾くほど金属的な音になります。
<b>CHURCH ORGAN</b> (チャーチオルガン)	ステレオ			賛美歌の伴奏などに適した、柔らかい音のパイプオルガン。
<b>STRINGS</b> (ストリングス)	ステレオ			大編成弦楽アンサンブルの音。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
<b>CHOIR</b> (クワイア)	ステレオ			空間に広がる心和む合唱の音。スローな曲で和音の広がりが得られます。

1 ダイナミックサンプリングとは・・・

鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。よりピアノらしいダイナミックな表現を実現します。

# デモ曲一覧

## デモ曲

音色	曲名	作曲者
<b>GRAND PIANO</b> (グランドピアノ)	小犬のワルツ (Valse Op.64-1 "Petit chien")	F.F.Chopin
<b>E. PIANO 1</b> (エレクトリックピアノ1)	月の光 (Clair de lune)	C.A.Debussy
<b>E. PIANO 2</b> (エレクトリックピアノ2)	絵画的小品集より「スケルツォ・ワルツ」 (Scherzo-vals (Pièces Pittoresques))	E.Chabrier
<b>HARPSICHORD</b> (ハーpsiコード)	かっこう (Le Coucou)	L-C.Daquin
<b>VIBRAPHONE</b> (ビブラフォン)	練習曲イ短調 (Study in A minor)	Georges Pheiffer
<b>CHURCH ORGAN</b> (チャーチオルガン)	オルガン協奏曲第2番 (Organ Concerto Op.4 No.2)	G.F.Händel
<b>STRINGS</b> (ストリングス)	ブランデンブルグ協奏曲第3番 (Brandenburgisches Konzert No.3)	J.S.Bach
<b>CHOIR</b> (クワイア)	カンタータ140番より「目覚めよ!」 (Kantate Nr.140)	J.S.Bach

・上記デモ曲の中には、原曲から編集/抜粋しているものもあります。



# 基本設定一覧

基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)を一覧にしました。

	設 定	バックアップグループ
音色選択	GRAND PIANO	F8.1
デュアル機能	OFF	
リバーブの種類	音色ごと	
リバーブの深さ	音色ごと	
エフェクトの種類	音色ごと	
エフェクトの深さ	音色ごと	
タッチの種類	MEDIUM	
タッチがFIXEDのときの音量	64	
メトロノーム	OFF	-
メトロノームの拍子	0(無拍子)	F8.1
テンポ	120	-
トランスポーズ	0	F8.3

「-」の項目はバックアップはありません。

## ファンクションの基本設定

ファンクションNo.	項 目	基本設定値	バックアップグループ
F1.	音程	A3=440Hz	F8.3
F2.1	音律	1(平均律)	
F2.2	基音	C	
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F8.1
F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと	
F3.3、F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと	
F3.5、F3.6	デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと	
F4.	左ペダル機能	1(ソフトペダル)	F8.4
F5.	メトロノーム音量	10	F8.1
F6.	ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量	5	
F7.1	MIDI送信チャンネル	1	F8.2
F7.2	MIDI受信チャンネル	ALL	
F7.3	ローカルコントロール	ON	
F7.4	プログラムチェンジ送受信	ON	
F7.5	コントロールチェンジ送受信	ON	
F7.6	MIDIトランスポーズ量	0	
F8.	バックアップの設定	すべてOFF	*

「\*」の項目は常にバックアップされます。

# ミディ MIDI データフォーマット

## 1. ノートオン/オフ

[ 9nH ] [ kkH ] [ vvH ]  
 9nH = ノートオン/オフ イベント (n = チャンネルNo.)  
 kkH = ノートNo.  
 (送信: 09H ~ 78H = A-2 ~ C8)  
 (受信: 00H ~ 7FH = C-2 ~ G8) \*1  
 vvH = ペロシティ  
 (ノートオン = 01H ~ 7FH, ノートオフ = 00H)

[ 8nH ] [ kkH ] [ vvH ] (受信のみ)  
 8nH = ノートオフ (n = チャンネルNo.)  
 kkH = ノートNo. (00H ~ 7FH = C-2 ~ G8)  
 vvH = ペロシティ

\*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、  
 オクターブ単位で折り返して発音します。

## 2. コントロールチェンジ

[ BnH ] [ ccH ] [ vvH ]  
 BnH = コントロールチェンジ (n = チャンネルNo.)  
 ccH = コントロールNo.  
 vvH = コントロール値

### 1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)  
 00H バンク選択MSB 00H:ノーマル  
 20H バンク選択LSB 00H ~ 7FH

プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理  
 は保留されます。

### 2) メインボリューム(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)  
 07H ボリューム 00H ~ 7FH

### 3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)  
 0BH エクスプレッション 00H ~ 7FH

### 4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値(vvH)  
 40H ダンパー 00H ~ 7FH

### 5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)  
 42H ソステヌート 00H ~ 3FH:オフ, 40H ~ 7FH:オン

### 6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)  
 43H ソフトペダル 00H ~ 3FH:オフ, 40H ~ 7FH:オン

### 7) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)  
 5BH エフェクト1デプス 00H ~ 7FH

リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定しま  
 ず。

### 8) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)  
 5EH エフェクト4デプス 00H ~ 7FH

## 3. モード・メッセージ

[ BnH ] [ ccH ] [ vvH ]  
 BnH = コントロール イベント (n = チャンネルNo.)  
 ccH = モード・メッセージNo.  
 vvH = モード・メッセージ値

### 1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)  
 78H オール・サウンド・オフ 00H

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。た  
 だし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッ  
 セージの状態は保持します。

### 2) リセット・オール・コントロール

ccH コントローラー 値(vvH)  
 79H リセット・オール・コントロール 00H

以下のようにリセットされます。

コントロール	設定値
エクスプレッション	127(最大)
ダンパーペダル	(オフ)
ソステヌート	(オフ)
ソフトペダル	(オフ)

### 3) ローカルコントロール(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)  
 7AH ローカルコントロール 00H(オフ) 7FH(オン)

### 4) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)  
 7BH オール・ノート・オフ 00H

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフに  
 します。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場  
 合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

### 5) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)  
 7CH オムニ・オフ 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ない  
 ます。

### 6) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)  
 7DH オムニ・オン 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ない  
 ます。

### 7) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)  
 7EH モノ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行な  
 います。

### 8) ボリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)  
 7FH ボリ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行な  
 います。

## 補足

- ファンクションでコントロールチェンジON/OFFがOFF  
 されているときは、コントロールチェンジは送受信されま  
 せん。ただし、Bank MSB/LSB、モードメッセージを除き  
 ます。
- ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しませ  
 ん。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合  
 わせません。)
- ボイス・バンク (MSB, LSB) 受信時は、順番に関係なく  
 受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラム  
 チェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際  
 の音色を決めます。
- 本機は常にマルチティンバー・モード、ポリ・モードであ  
 り、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ポリ・モードを受信  
 しても、モードは変わりません。

## 4. プログラムチェンジ

[ CnH ] [ ppH ]  
 CnH = プログラムチェンジ (n = チャンネルNo.)  
 ppH = プログラムチェンジNo.

ファンクションでプログラムチェンジON/OFFがOFF  
 されているときは、プログラムチェンジは送受信されま  
 せん。Bank MSB/LSBも送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、<付  
 表1>をご参照ください。

## 5. システム・リアルタイム・メッセージ

### 1) アクティブ・センシング

[ FEH ]

200msecごとに送信します。  
 一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信  
 号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノ  
 ト・オフ、リセット・オール・コントロールを受信したとき  
 と同じ処理をします。

### 2) クロック

[ F8H ]

96分タイミングで送信します。  
 エクスクループ・メッセージでクロックがエクスター  
 ナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信し  
 ます。

### 3) スタート

[ FAH ]

レコーダスタート時に送信します。  
 受信するとソングがスタートします。  
 クロックがInternalに設定されているときは受信しませ  
 ん。

### 4) ストップ

[ FCH ]

レコーダストップ時に送信します。  
 受信するとソングがストップします。  
 クロックがInternalに設定されているときは受信しませ  
 ん。

MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネル  
 のダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール  
 ノート・オフします。

## <付表1>

### 各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

	MSB	LSB	P.C.#
GRAND PIANO	0	112	0
E.PIANO 1	0	112	5
E.PIANO 2	0	112	4
HARPSICHORD	0	112	6
VIBRAPHONE	0	112	11
CHURCH ORGAN	0	112	19
STRINGS	0	112	48
CHOIR	0	112	52

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ  
(ヤマハMIDIフォーマット)

[F0H] [43H] [0nH] [7CH] .... [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH :n = チャンネルNo.  
00H,2AH :データ長  
43H,4CH,20H,20H : ] 機種コード  
43H,4CH,50H,27H,30H,30H : (ハ・ジ・ヨx.y)  
30H,30H : (ハ・ジ・ヨx.y)

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)]=0-(43H+4CH+20H+.....+データエンド)  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]

- (1) 1st Voice
- (2) Dual On/Off
- (3) Dual Voice
- (4) Dual Balance
- (5) Dual Detune
- (6) Dual Voice1 Octave
- (7) Dual Voice2 Octave
- (8) Dual Voice1 Effect Depth
- (9) Dual Voice2 Effect Depth
- (10) - - -
- (11) - - -
- (12) - - -
- (13) - - -
- (14) - - -
- (15) - - -
- (16) - - -
- (17) - - -
- (18) - - -
- (19) Reverb Type 1
- (20) Reverb Type 2
- (21) Reverb Depth1
- (22) Reverb Depth2
- (23) Effect Type 1
- (24) Effect Type 2
- (25) Effect Depth
- (26) Touch Sensitivity
- (27) Fixed Data
- (28) Left Pedal (Soft/Start)
- (29) テンポ(絶対値 下位byte)
- (30) テンポ(絶対値 上位byte)

パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ  
(ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1) ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ  
[F0H] [7FH] [XnH] [04H] [01H] [!IH] [mmH] [F7H]

MIDIマスターボリューム

全チャンネルの音量が一度に変化します。  
MIDIマスター ボリュームを受信したときは、MIDI入力  
チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは変  
化しません。

F0H :エクスクルーシブ・ステータス  
7FH :ユニバーサル・リアルタイム  
7FH :ターゲットデバイスのID  
04H :サブID #!(機種コントロール・メッセージ)  
01H :サブID #Z(マスターボリューム)  
!IH :ボリュームLSB  
mmH :ボリュームMSB  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H :エクスクルーシブ・ステータス  
7FH :ユニバーサル・リアルタイム  
XnH :Xは無視、nは0~Fを受信  
04H :サブID #!(機種コントロール・メッセージ)  
01H :サブID #Z(マスターボリューム)  
!IH :ボリュームLSB  
mmH :ボリュームMSB  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ(GM ON)  
[F0H] [7EH] [XnH] [09H] [01H] [F7H]

ジェネラルMIDIモード・オン

F0H :エクスクルーシブ・ステータス  
7EH :ユニバーサル・ノン・リアルタイム  
7FH :ターゲットデバイスのID  
09H :サブID #!(ジェネラルMIDIメッセージ)  
01H :サブID #Z(ジェネラルMIDIオン)  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H :エクスクルーシブ・ステータス  
7EH :ユニバーサル・ノン・リアルタイム  
XnH :Xは無視、nは0~Fを受信  
09H :サブID #!(ジェネラルMIDIメッセージ)  
01H :サブID #Z(ジェネラルMIDIオン)  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期  
状態になります。このメッセージの実行には、約50msec  
かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してくださ  
い。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ  
(XG規格)

1) XGネイティブ・パラメーター・チェンジ  
[F0H] [43H] [1nH] [4CH] [hhH] [mmH]  
[!IH] [ddH] ..... [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス  
43H :ヤマハ  
1nH :n = 送信時は常に0、受信時は0~F  
4CH :XGモデルID  
hhH :アドレスHigh  
mmH :アドレスMid  
!IH :アドレスLow  
ddH :データ  
! : !  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

データサイズはパラメーターのサイズに一致する必要  
があります。

XGシステム・オンを受信することにより、MIDIがリセッ  
トされて初期状態になります。このメッセージの実行に  
は、約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注  
意してください。

2) バルクダンブ(受信のみ)

[F0H] [43H] [0nH] [4CH] [aaH] [bbH] [hhH]  
[mmH] [!IH] [ddH] ..... [ccH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス  
43H :ヤマハ  
0nH :n = 送信時は常に0、受信時は0~F  
4CH :XGモデルID  
aaH :バイト・カウント  
bbH :バイト・カウント  
hhH :アドレスHigh  
mmH :アドレスMid  
!IH :アドレスLow  
ddH :データ  
! : !  
ccH :チェック・サム  
F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

XGシステム・オンを受信すると、必要なパラメーター、  
コントロール・チェンジ等を受け取り、初期状態になり  
ます。このメッセージの実行には、約50msecかかるため、  
次のメッセージとの間隔を注意してください。

XGネイティブ・パラメーター・チェンジで、データサイズ  
が2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータを  
送信します。

XGバルクダンブのアドレスおよびバイトカウントは、付  
表2のMIDIパラメーター・チェンジ表(システム)を参  
照してください。付表中トータルサイズで区切られた  
データシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの  
先頭アドレス(00H, 00H, 00H)のみバルクデータのアド  
レスとして有効です。

<付表2>

MIDIパラメーター・チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
00 00 00	4	020C ~ 05F4	マスター・チューン	-50 ~ +5[セント]	00 04 00 00
01				1stビット3~0 ビット15~12	400
02				2ndビット3~0 ビット11~8	
03				3rdビット3~0 ビット7~4	
04	1	00~7F	マスター・ボリューム	0~127	7F
05	1				
06	1	34~4C	トランスポーズ	-12 ~ +1[セミトーン]	40
7E		0	XGシステム・オン	00=XGシステム・オン	
7F		0	オール・パラメーター・リセット	00=オン(受信のみ)	
トータルサイズ	07				

020CH以下の値は-50セントになります。  
05F4H以上の値は+50セントになります。

28H~33Hの値は-12~-1に折り返ります。  
4DH~58Hの値は+1~+12に折り返ります。

<付表3>

MIDIパラメーター・チェンジ表(エフェクト1)

リバーブ、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00 ~ 7F	リバーブ・タイプMSB	エフェクトMIDIマップを参照	01 (=ホール1)
		00 ~ 7F	リバーブ・タイプLSB	00:ベーシック・タイプ	00
02 01 40	2	00 ~ 7F	バリエーション・タイプMSB	エフェクトMIDIマップ参照	00 (=エフェクトなし)
		00 ~ 7F	バリエーション・タイプLSB	00:ベーシック・タイプ	00

注意:ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表4>

MIDIパラメーター・チェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00 ~ 7F	ドライレベル	0 ~ 127	7F

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(Reverb)

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H

<付表6>

エフェクトMIDIマップ(Effect)

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
PHASER	48H	10H
TREMOLO	42H	12H
DELAY	05H	10H

9. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (デジタルピアノMIDI準拠)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [nnH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス

43H :ヤマハ

73H :デジタルピアノ

xxH :機種ID(67Hまたはデジタルピアノ共通:01H)

nnH :サブステータス

コントロール nn

内部クロック 02H

外部クロック 03H

バルクデータ 06H(06Hの後にバルクデータが続く)

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

nn=02H,03Hの機種IDは、機種(67H)の代わりに、デジタルピアノ共通ID(01H)がきてても受け付けます。

シーケンスデータバルクダンブ

F0H,43H,73H

6AH

:機種ID

06H

:バルクID

05H

:シーケンスデータ

0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH

:データレングス

[バルクデータ]

:

[チェックサム(1バイト)] :0 - sum(バルクデータ)

F7H

:エンド・オブ・エクスクルーシブ

10. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (特殊操作子)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [11H] [0nH] [ccH] [vvH] [F7H]

F0H :エクスクルーシブ・ステータス

43H :ヤマハ

73H :デジタルピアノ

67H :機種ID

11H :特殊操作子

0nH :コントロールMIDIチェンジ(n=特殊操作子チャンネルNo.)

cc :コントロールNo.

vv :値

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール オン ccH vvH

ストロノーム 常に00H 1BH 00H:オフ

01H:--

02H:2/4

03H:3/4

04H:4/4

05H:5/4

06H:6/4

7FH:ビートなし

チャンネル デチューン Ch:00 ~ 0FH 43H(Chごとのデチューン量を設定する)

00H ~ 7FH

ボイス・リザーブ Ch:00 ~ 0FH 45H 00H:リザーブ・オフ

7FH:オン\*1

\*1 リザーブ・オンの間に受信したボリュウム、エクスプレッションは次のキー・オン時から有効になります。通常はリザーブ・オフです。

11. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (その他)

[F0H] [43H] [1nH] [27H] [30H] [00H] [00H] [mmH] [llH] [ccH] [F7H]

マスター・チューニング(XGと後着優先)で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H :エクスクルーシブ・ステータス

43H :ヤマハ

1nH :送信時は常に0、受信時は0 ~ F

27H :TG100の機種ID

30H :サブID

00H :

00H :

mmH :マスターチューニングMSB

llH :マスターチューニングLSB

ccH :ccはなんでもよい。(7FH以下)

F7H :エンド・オブ・エクスクルーシブ

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源 <sup>オン</sup> 時 設定可能	1 チャンネル 1-16 チャンネル	1 チャンネル 1-16 チャンネル	
モード	電源 <sup>オン</sup> 時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 *1 × ×	ポリモードのみ
ノートナンバー	音域	9-120 *****	0-127 21-108	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	9nH, v= 1-127 × 9nH, v= 0	v= 1-127 ×	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ	0,32 07 11 64 66 67 91 94  120 121	×       × ×		バンクセレクト ボリューム エクスプレッション ダンパー ソステヌート ソフトペダル リバーブデプス エフェクトデプス  オール・ラウンド・オフ リセット・オール・コントロール
プログラムチェンジ	設定可能範囲	*****		
システムエクスクルーシブ				
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド			
その他	ローカルオン / オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	×  ×	( 123-127 )  ×	
備考		*1 受信モードは、常にマルチティンバー、ポリモードです。		

モード1:オムニオン、ポリ      モード2:オムニオン、モノ  
モード3:オムニオフ、ポリ      モード4:オムニオフ、モノ

:あり  
x :なし

# 別売品のご紹介

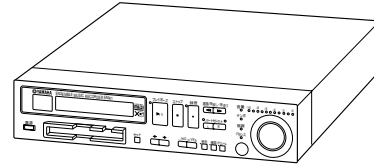
## ヘッドホン HPE-160

¥5,500( 税別価格)



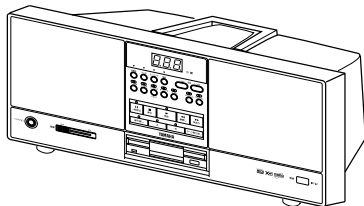
## アンサンブル・ミュージック・レコーダー EMR1

¥88,000( 税別価格)



## ミュージック データ プレーヤー MDP10(「伴奏くん」)

¥58,000( 税別価格)



XG音源を備えたシーケンサー(録音/再生機器)です。J-5000と接続して「ピアノアンサンブル」を再生したり、J-5000にない多彩な音色で演奏/録音したりするのに最適です。

スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノソフト」(P46)や「ピアノアンサンブル」(P46)をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。J-5000と組み合わせ、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。(P46)

# 仕様

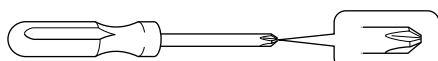
鍵盤	88鍵(A-1~C7)
音源	AWMステレオサンプリング
最大同時発音数	最大64音
音色数	8
効果	リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ) エフェクト(コーラス/フェーザー/トレモロ/ディレイ)
ボリューム	マスターボリューム
コントロール	デュアル、マトロノーム、トランスポーズ、 タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス) 各種ファンクション
レコーダー	2トラック録音/再生、テンポ、シンクロスタート
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲50曲
付属端子	AUX出力端子(R、L/L+R):出力インピーダンス600Ω、 AUX入力端子(R、L/L+R):入力インピーダンス10kΩ /入力感度0.26V、 ヘッドホン端子×2、TO HOST端子、MIDI端子(IN、OUT、THRU)、ペダル端子
メインアンプ	20W×2
スピーカー	16cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ
消費電力	35W
寸法[間口×奥行×高さ] ( )内は譜面立てを立てた場合	1370mm×501mm×843mm (1370mm×501mm×1030mm)
質量	50kg
装備	キーカバー、譜面立て
付属品	高低自在イスBC-15、ヘッドホン、保証書、ご愛用者カード、 取扱説明書(本書)、みんなのピアノクラシック名曲50選(楽譜集)

・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

# J-5000 の組み立て方

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ・ ネジは付属の指定サイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

プラス (+) のドライバーを用意してください。



下記の部品を使用します。組み立て手順に沿って順番に部品を取り出し、ご使用ください。

## ネジセット

長いネジ (丸頭): 4本  
(6×25mm) ①



先のとがったネジ: 4本  
(4×20mm) ④



短いネジ (平頭): 4本  
(6×16mm) ②



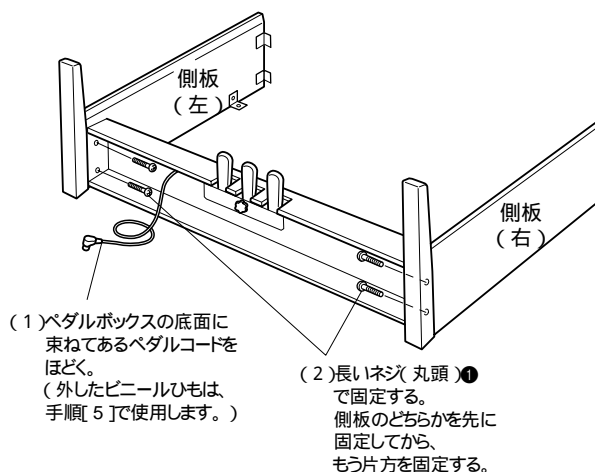
コードホルダー: 2個



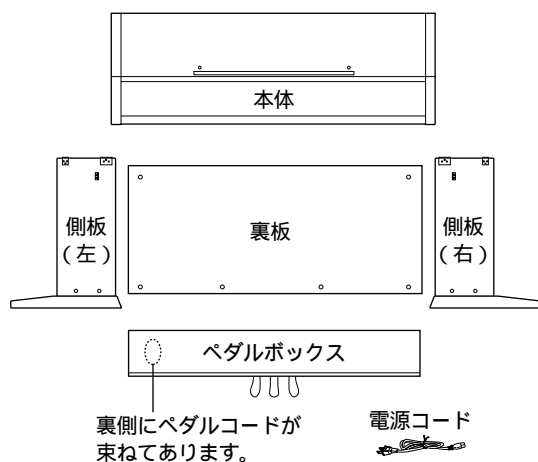
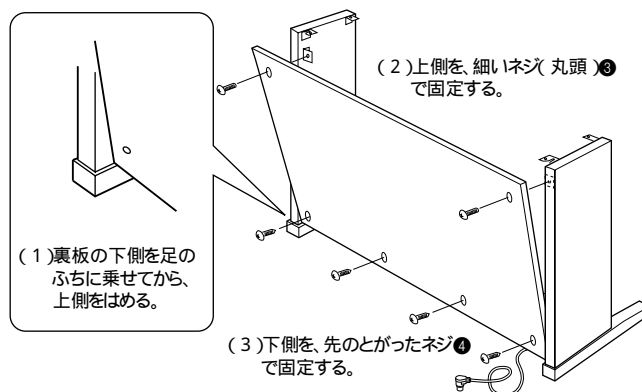
細いネジ (丸頭): 2本  
(4×12mm) ③



## 1 ペダルボックスを固定します。



## 2 裏板を固定します。





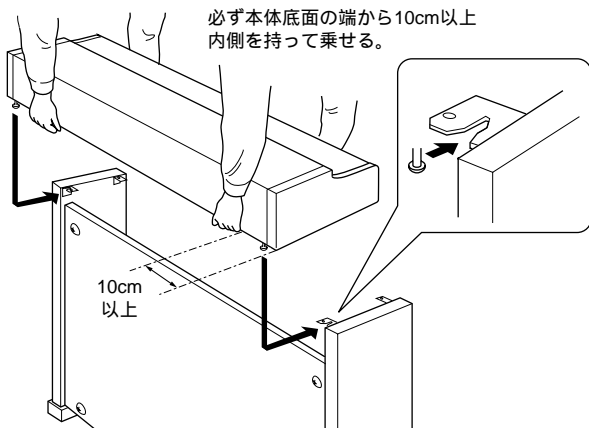
### 3 本体を乗せます。



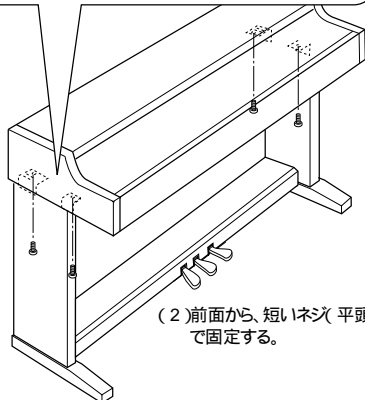
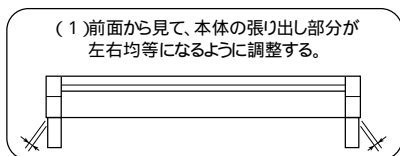
指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。



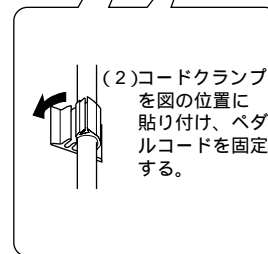
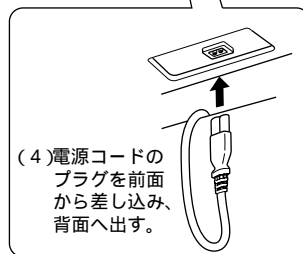
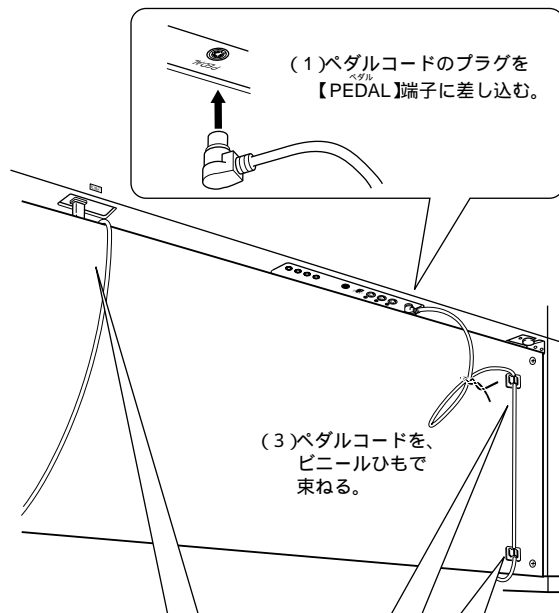
指定した位置以外を持たないでください。



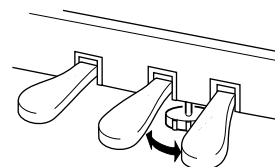
### 4 本体を固定します。



### 5 ペダルコードを接続します。



### 6 アジャスターを回します。



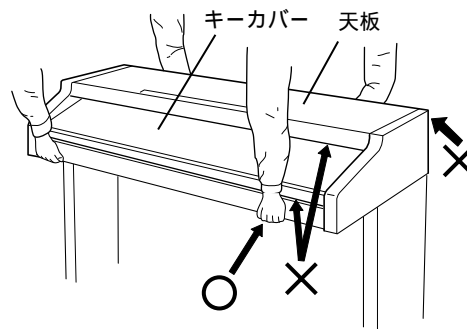
#### 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか?  
組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがJ-5000にあたりませんか?  
J-5000を移動してください。
- J-5000がゆれませんか?  
ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか?  
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?  
確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。



天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



(ご注意) J-5000を初めて組み立てた時だけ、鍵盤を保護するひもの取り外しが必要です。キーカバーを開けて(P8)鍵盤の上にある説明紙をご覧ください、取り外してください。

# 索引

- この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P3「目次」をご覧ください
- ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P30「ファンクション一覧表」をご利用ください。
- 「\*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

## 数字・ABC順

2つの音色を混ぜる	22
ALL(ディスプレイ表示)	15
AUX IN端子	13、39
AUX OUT端子	13、39
DEMO	12、14
EFFECT	12、20
EMR1	39、53
FUL(ディスプレイ表示)	25*
FUNCTION	12、31
HOST SELECTスイッチ	13、40、42
HST(ディスプレイ表示)	40
IN/OUT/THRU(MIDI)端子	13、40
MASTER VOLUME	10、12
MDP1(「伴奏くん」)	39、46、53
METRONOME	12、15、23
MIDI	38
MIDI機能の諸設定(ファンクション)	35
MIDIケーブル	38、42、43
MIDI接続(パソコン接続)	42
MIDI端子	13、38、40、42
MIDIデータフォーマット	49
MIDIドライバー	41
PEDAL端子	13、40
PHONES端子	10、12
POWER	10、12
PRESET SONG	12、15
REC	12、24
REVERB	12、19
rn(ディスプレイ表示)	15
Scr(ディスプレイ表示)	44
START/STOP(METRONOME)	12、15、23
START/STOP(SONG)	12、14、15、25、28
TEMPO	12、15、23、28
TO HOST端子	13、38、40、41
TOUCH	12、20
TRACK1、TRACK2(ピアノ50曲)	16
TRACK1、TRACK2(録音)	24
TRANSPOSE	12、21
USBケーブル	43
USB接続(パソコン接続)	43
VOICE	12、27

## あいうえお順

あ	
アフターサービス	保証とアフターサービス 59
安全上のご注意	5
イス	高低自在イス 7
移調	トランスポーズ 21
一覧表(音色)	音色一覧 47
一覧表(基本設定)	基本設定一覧 48
一覧表(デモ曲)	デモ曲一覧 47
一覧表(ファンクション)	ファンクション一覧 30
エフェクト	12、20
オーディオ接続	39
お手入れについて	7
音に変化を付ける	19
音色	12、18
音色一覧	47
音程の微調整(ファンクション)	32
音律の選択(ファンクション)	32
音量調節	10
音量設定(ピアノ50曲のパート再生OFF)	ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定(ファンクション) 34
音量設定(メロノーム)	メロノーム音量の設定(ファンクション) 34
音量調節(デモ曲)	14
音量調節(ピアノ50曲)	15
音量調節(録音した曲の再生)	28
か	
各種の便利な設定(ファンクション)	30
楽譜立て	譜面立て 9
キー(調)の変更	トランスポーズ 21
キーカバー	9
キータッチ	タッチ 20
基本設定	48
基本設定一覧	48
組み立て方	54
鍵盤タッチ	タッチ 20
鍵盤蓋	キーカバー 9
効果(エフェクト)	エフェクト 12、20
効果(リバーブ)	リバーブ 12、19
高低自在イス	7
故障かな?と思ったら	44
ご使用前の準備	9
ご引越しの際は	7
コンピューター	パーソナルコンピューター 9、40~43
コンピューター端子	TO HOST端子 13、38、40、41

## さ

再生スタート/ストップ(デモ曲)	14
再生スタート/ストップ(ピアノ50曲)	15
再生スタート/ストップ(録音した曲)	28
残響 リバープ	19
仕様	53
初期設定 基本設定	48
初期値	48
シリアルケーブル	41
シリアル接続(パソコン接続)	41
シンクロスタート(ピアノ50曲)	16
シンクロスタート(録音した曲の再生)	29
スタート/ストップ(ソング)	12、14、15、25、28
スタート/ストップ(左のペダル)	16、29
スタート/ストップ(メロノーム)	12、15、23
スピーカー接続 オーディオ接続	39
選曲(デモ曲)	14
選曲(ピアノ50曲)	15
ソステヌートペダル まん中のペダル	13、18
ソフトペダル 左のペダル	13、19

## た

タッチ	12、20
他の機器と接続する	39
端子(AUX IN) AUX IN端子	13、39
端子(AUX OUT) AUX OUT端子	13、39
端子(MIDI IN/OUT/THRU) IN/OUT/THRU(MIDI)端子	13、40
端子(PEDAL) PEDAL端子	13、40
端子(PHONES) PHONES端子	10、12
端子(TO HOST) TO HOST端子	13、38、40、41
端子(コンピューター) TO HOST端子	13、38、40、41
ダンパーペダル 右のペダル	13、18
チューニング 音程の微調整(ファンクション)	32
調律について	7
調律法 音律の選択(ファンクション)	32
テープ録音 オーディオ接続	39
デモ演奏 デモ曲	14
デモ曲	14
デモ曲一覧	47
デュアル 2つの音色を混ぜる	22
デュアルの諸設定(ファンクション)	33
電源	10
テンポ調節(ピアノ50曲)	15
テンポ調節(メロノーム)	12、23
テンポ調節(録音した曲の再生)	28
トラック1、トラック2(ピアノ50曲)	16
トラック1、トラック2(録音)	24
トラックの再生ON/OFF	28
トランスポーズ	12、21

## な

音色	12、18
----	-------

## は

初めて電源を入れたときの設定 基本設定	31、48
パーソナルコンピューター	9、40~43
パソコン パーソナルコンピューター	9、40~43
パソコン活用マニュアル	2、40
バックアップ	37
バックアップON/OFFの設定(ファンクション)	37
パワー 電源	10、12
伴奏くん MDP10「伴奏くん」	39、46、53
ピアノ50曲	15
ピアノ50曲の片手練習	16
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定(ファンクション)	34
ピアノ50曲の部分練習	17
左のペダル	13、19
左ペダル機能の設定(ファンクション)	34
ピッチ 音程の微調整(ファンクション)	32
拍子設定(メロノーム)	23
ファンクション 各種の便利な設定(ファンクション)	12、30
ファンクション一覧	30
フોンズ ヘッドフォン	10、12
付属品	7
蓋 キーカバー	9
2つの音色を混ぜる	22
譜面立て	9
プリセットソング ピアノ50曲	12、15
ペダル	13、18
別売品	53
ヘッドフォン	7、10、53
ボイス(VOICE) 音色	12、18
他の機器と接続する	39
保証とアフターサービス	59
ホストセレクトスイッチ	13、40、42
ボリューム調節 音量調節	10、12

## ま

マスターボリューム 音量調節	10、12
まん中のペダル	13、18
右のペダル	13、18
ミュージック データ	46
みんなのピアノクラシック名曲50選(楽譜集)	7
メロノーム	12、15、23
メロノーム音量の設定(ファンクション)	34

## ら

リバープ	12、19
レコード 録音	12、24
録音	24
録音されるデータの種類	26
録音し直し	25
録音上のご注意	27
録音スタート/ストップ	25



# 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

## 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず<sup>\*</sup>販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

## 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

### 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

## 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

## 修理のご依頼

まず本書の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

## 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などと合わせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL.(011)512-6108
仙台サービスステーション	〒983-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL.(044)434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場内	TEL.(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087)822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL.(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL.(092)472-2134

### [ 本社 ]

CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場内	TEL.(053)465-1158
--------	-----------	-----------	-------------	-------------------

住所および電話番号は変更されることがあります。

# ヤマハ株式会社

## デジタルピアノに関するお問い合わせ窓口

### ポータブル楽器 インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

受付日 月曜日～金曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）

受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

PA・DMI事業部 EKB国内営業部 営業第二グループ	〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-3275
EM東京事業所	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL. 03-5488-5476
EM北海道営業所	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011-512-6113
EM仙台営業所	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 TEL. 022-222-6147
EM大阪事業所	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL. 06-6252-5231
EM名古屋営業所	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL. 052-201-5199
EM広島営業所	〒730-8628 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL. 082-244-3749
EM九州営業所	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092-472-2130

住所および電話番号は変更になる場合があります。



この取扱説明書は  
エコパルプ( ECF:無塩素系漂白パルプ )  
を使用しています。



この取扱説明書は  
エコマーク認定の  
再生紙を使用しています。



この取扱説明書は  
大豆油インクで印刷しています。